

女川地区 住民アンケート 分析レポート

～結果から何が見えてくるか？～

平成31年2月

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

女川

国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

	← 国勢調査データ →				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	1,313	1,254	1,161	1,069	948	833
	20年間で27.8%減少					▲ 115
0~14歳 (人)	199	188	148	106	88	74
	20年間で55.8%減少					▲ 14
15~64歳 (人)	771	684	613	586	506	429
	20年間で34.4%減少					▲ 77
65歳~ (人)	343	382	400	377	354	330
	20年間で3.2%増加					▲ 24
高齢化率	26.12%	30.46%	34.45%	35.27%	37.34%	39.64%
(再掲) 75歳~ (人)	126	153	197	239	229	180
(再掲) 85歳~ (人)	35	38	36	48	75	78
(参考) 85歳以上の4人1人が要介護3以上/要介護3以上の2人に1人が85歳以上 (2010年国勢調査より)						
85歳以上の人を現役世代何人で支えるか (人)	22.0	18.0	17.0	12.2	6.7	5.5

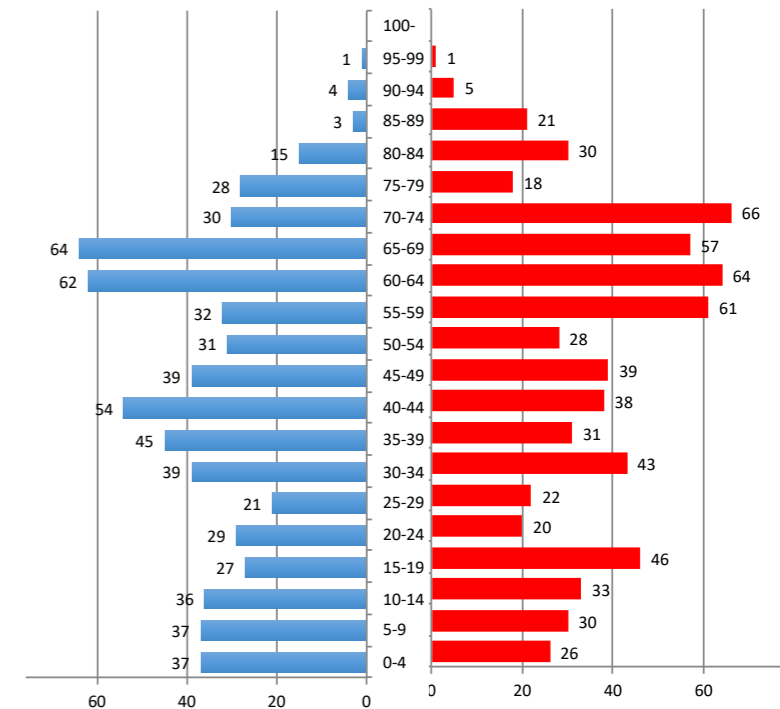
※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢者率 新潟県平均: 29.85%/全国平均: 26.63%

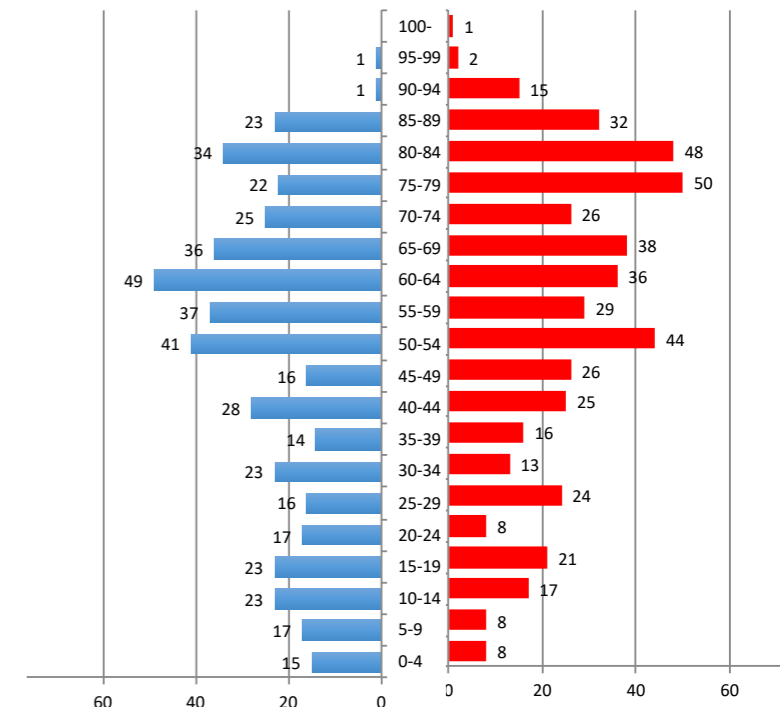
急激に少子高齢化が進展している!

女川地区の人口ピラミッドの推移

1995年 (H7)



2015年 (H27)

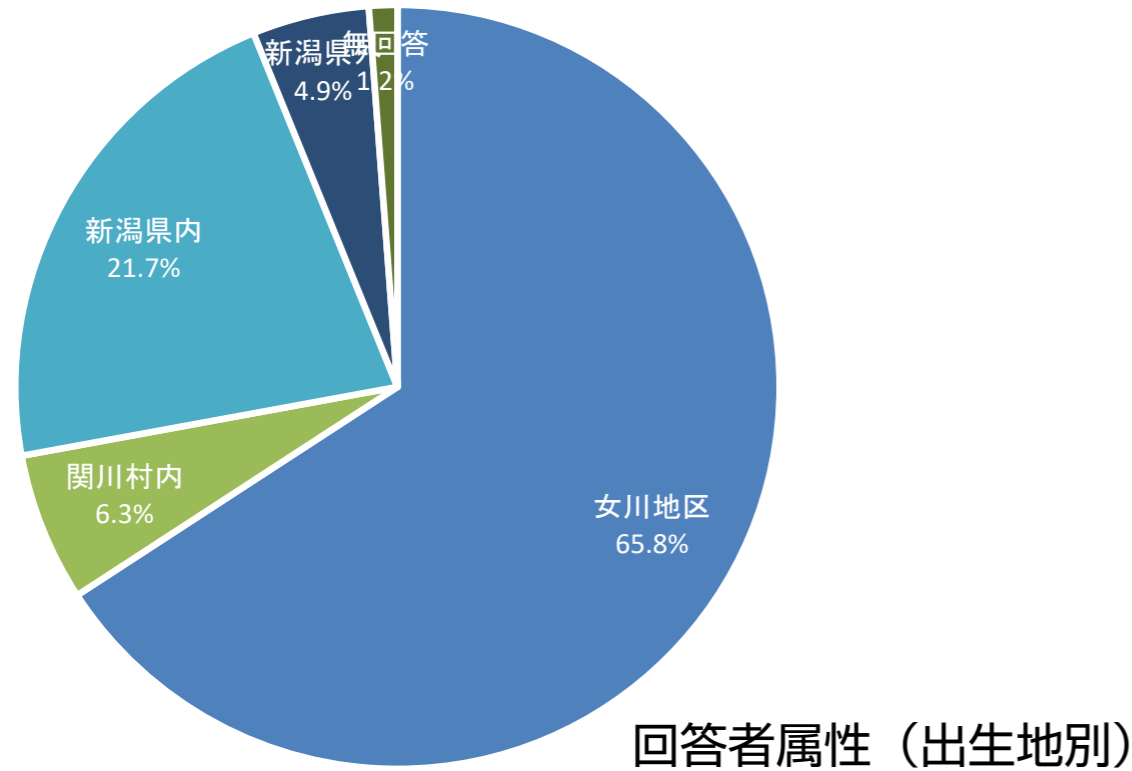


中学生以上の全住民アンケートの実施

配布数：877通

回収数：667通

回収率：**76.1%**



かなりの高回収率！



地域住民の意向がしっかりと
反映されているデータである

女川地区 住民アンケート

- 本アンケートは、住民一人一人の考えを把握し、世代別・男女別に日頃思っている考え・意見を整理するため、中学生以上の方に対して行っています。
- 回答は無記名でお願いいたします。
- 回答の結果は、個人を特定しない形で集計・分析し、今後の地域づくりに役立てていきます。
- アンケート用紙は、一人ひとり提出していただきますので、家族で意見が違って構いません。思ったことをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

- (年齢) 1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上
- (性別) 男性 ・ 女性

問2 あなたの生まれたところはどこですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 女川地区 2. 関川村内(女川地区を除く) 3. 新潟県内 4. 新潟県外

問3 あなたの仕事にあてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 農業 2. 林業 3. 漁業
4. 自営業 5. 会社員 6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト 8. 専業主婦(夫) 9. 中学生
10. 高校生・高専生 11. 大学生・短大生・専門学校生
12. その他() 13. 無職

※学生及び仕事されている方は、以下もお答えください。

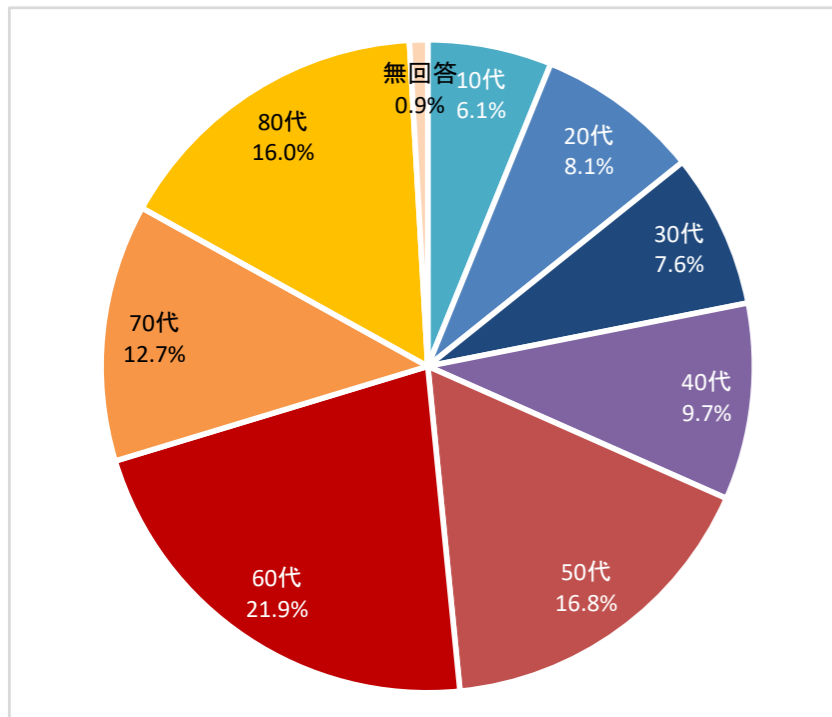
問3-2 休日はいつですか？(祝日を除く)

1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ
4. 平日 4. 不定期

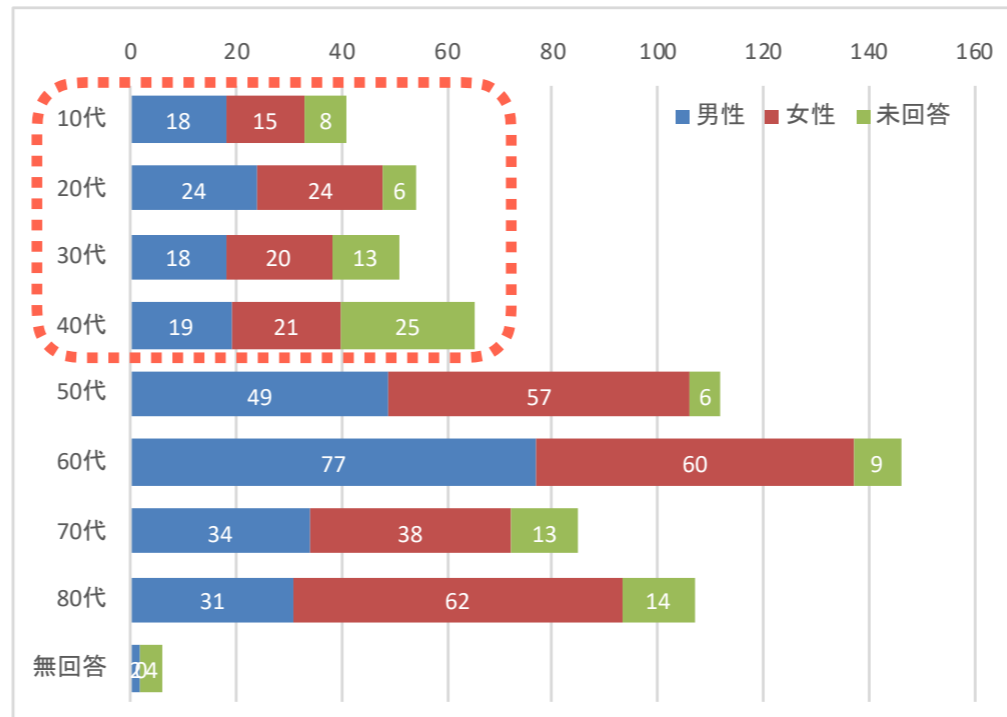
問4 農林業の作業(手伝いも含む)をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 作業をしている 2. 作業をしていない

回答者属性 (年代別)



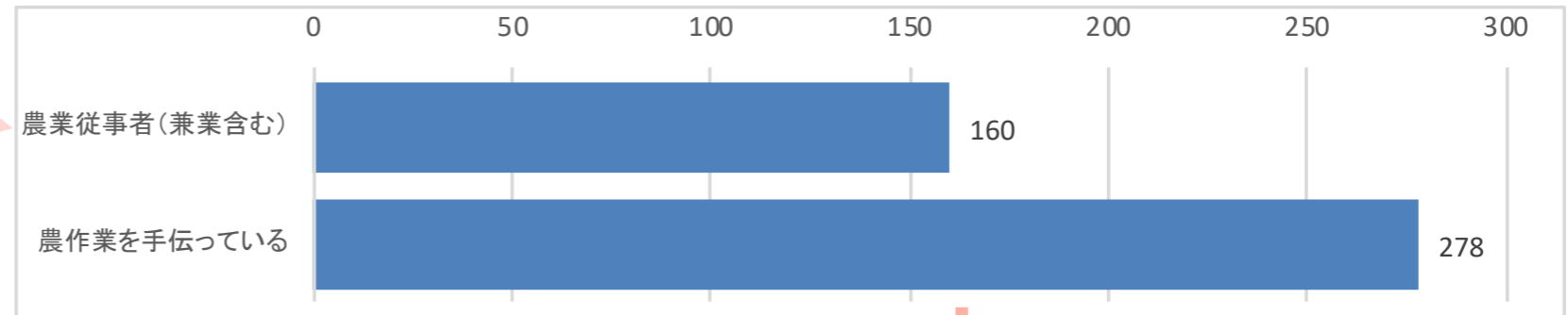
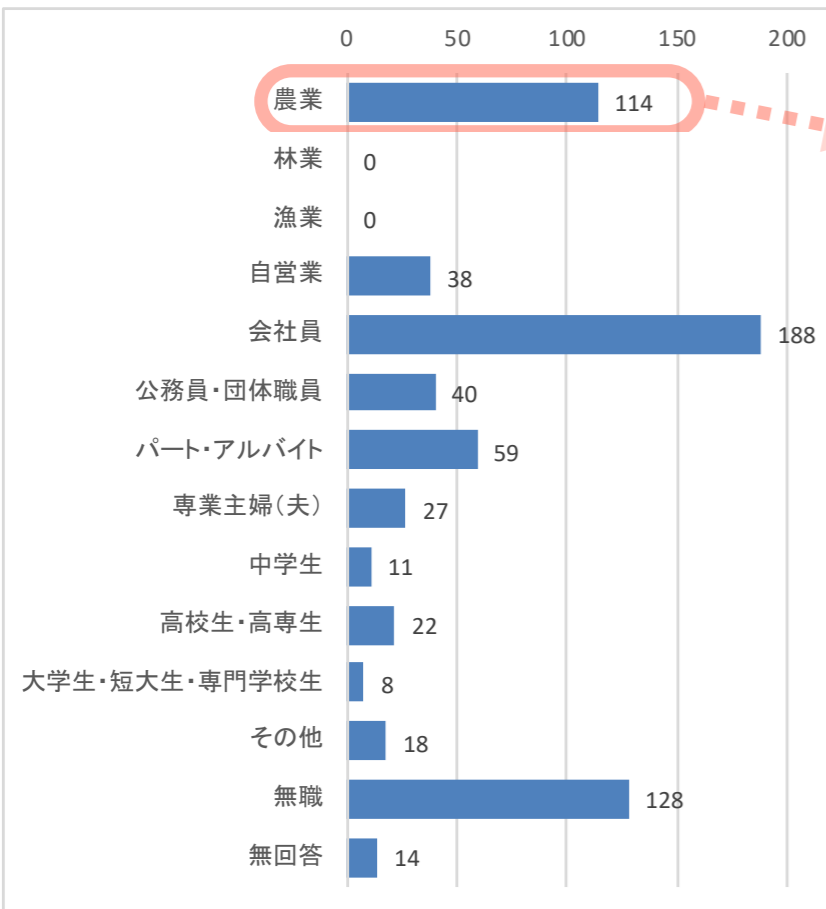
回答者属性 (年代別×男女別)



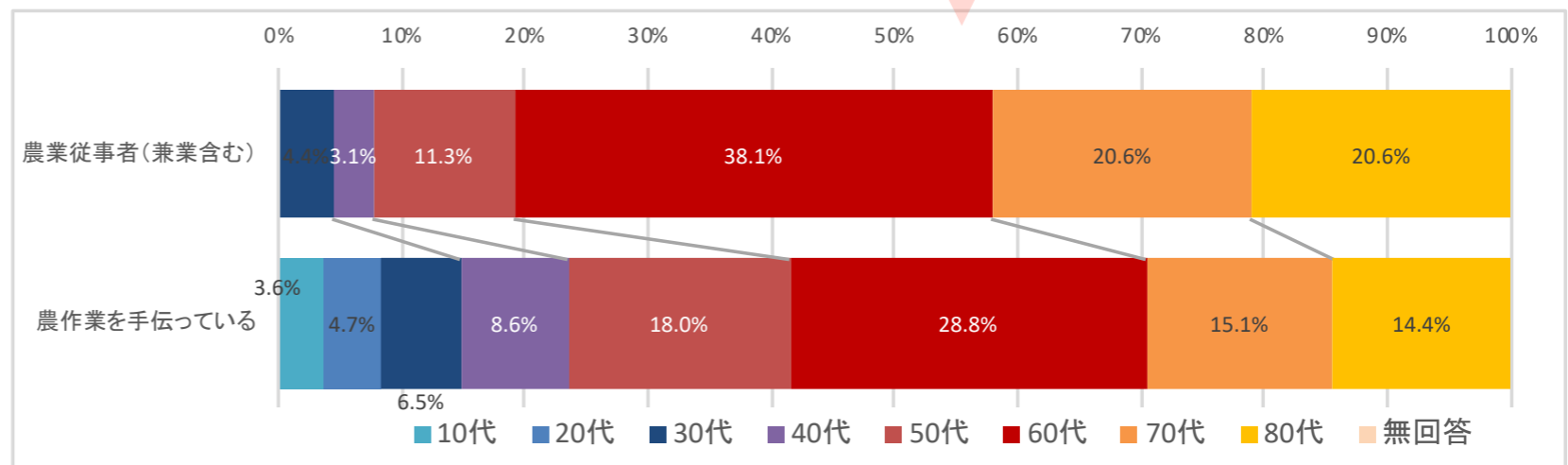
若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。



世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



農業従事者数と農作業手伝っている人数の比較

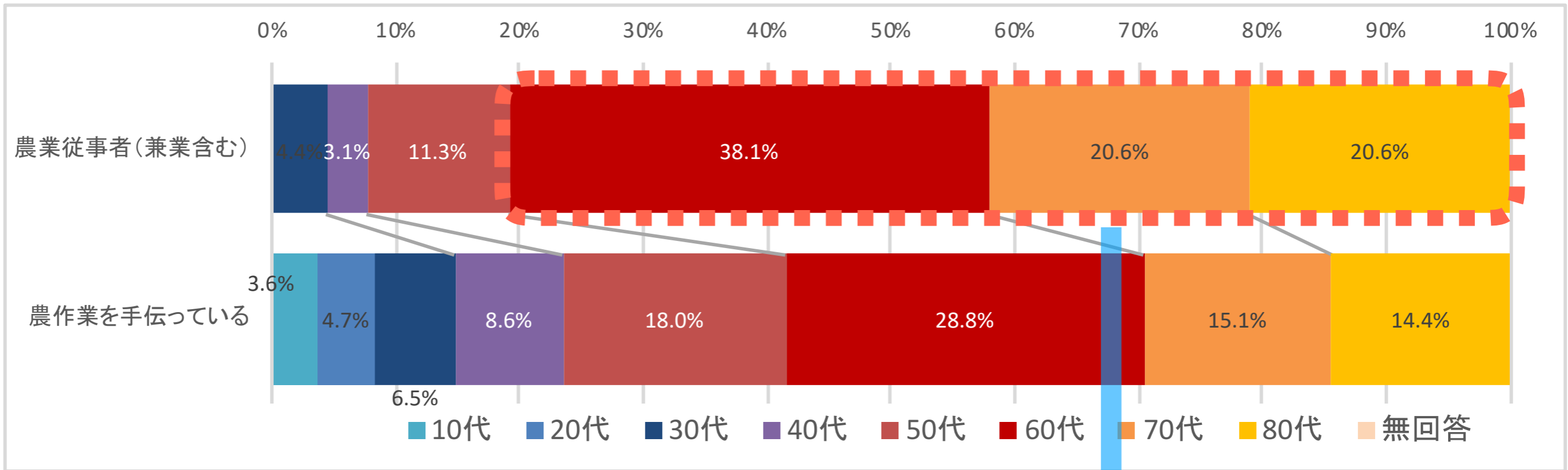


回答者属性 (職業)

農業従事者の年代構成 (割合)

農業従事者の年代構成

関川村女川地区 (2018)



農業従事者の年代構成 (人数)

年代	人数
10代	0
20代	2
30代	7
40代	5
50代	18
60代	61
70代	33
80代	33
年代無回答	1
計	160

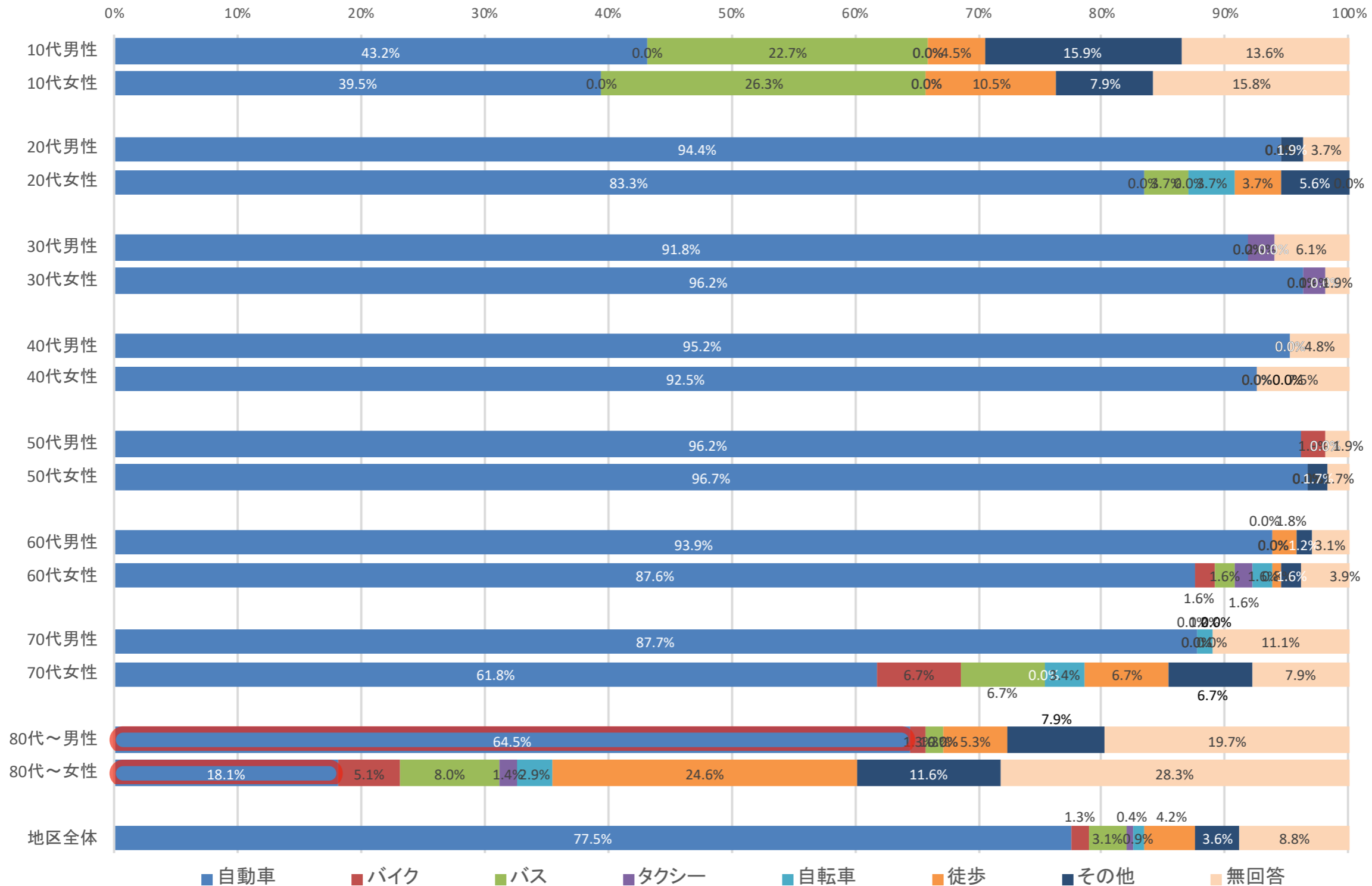
← 農業従事者の**79.3%**が**60代以上**

農地の維持管理はどうなりますか？

→ **20年後は100人程度!?**

年代別・男女別の日常的な交通手段

関川村女川地区 (2018)



今は運転ができるから困っていないが・・・
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

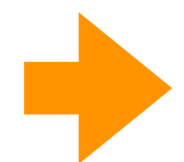
80代になると自分で車の運転をする人の割合が減少



80代女性の運転免許保有率は低い傾向



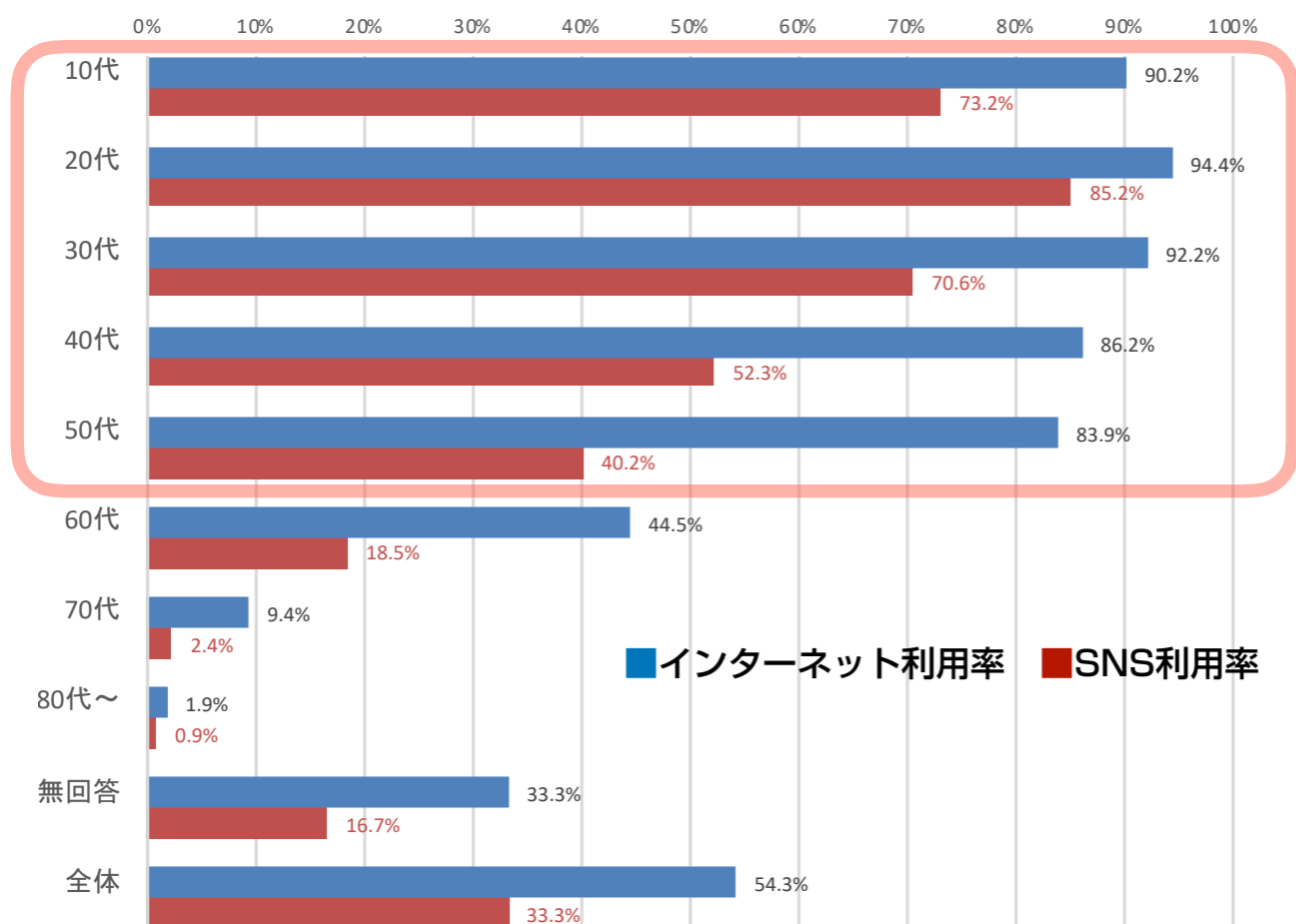
加齢と共に運転しなくなる人が今後急増



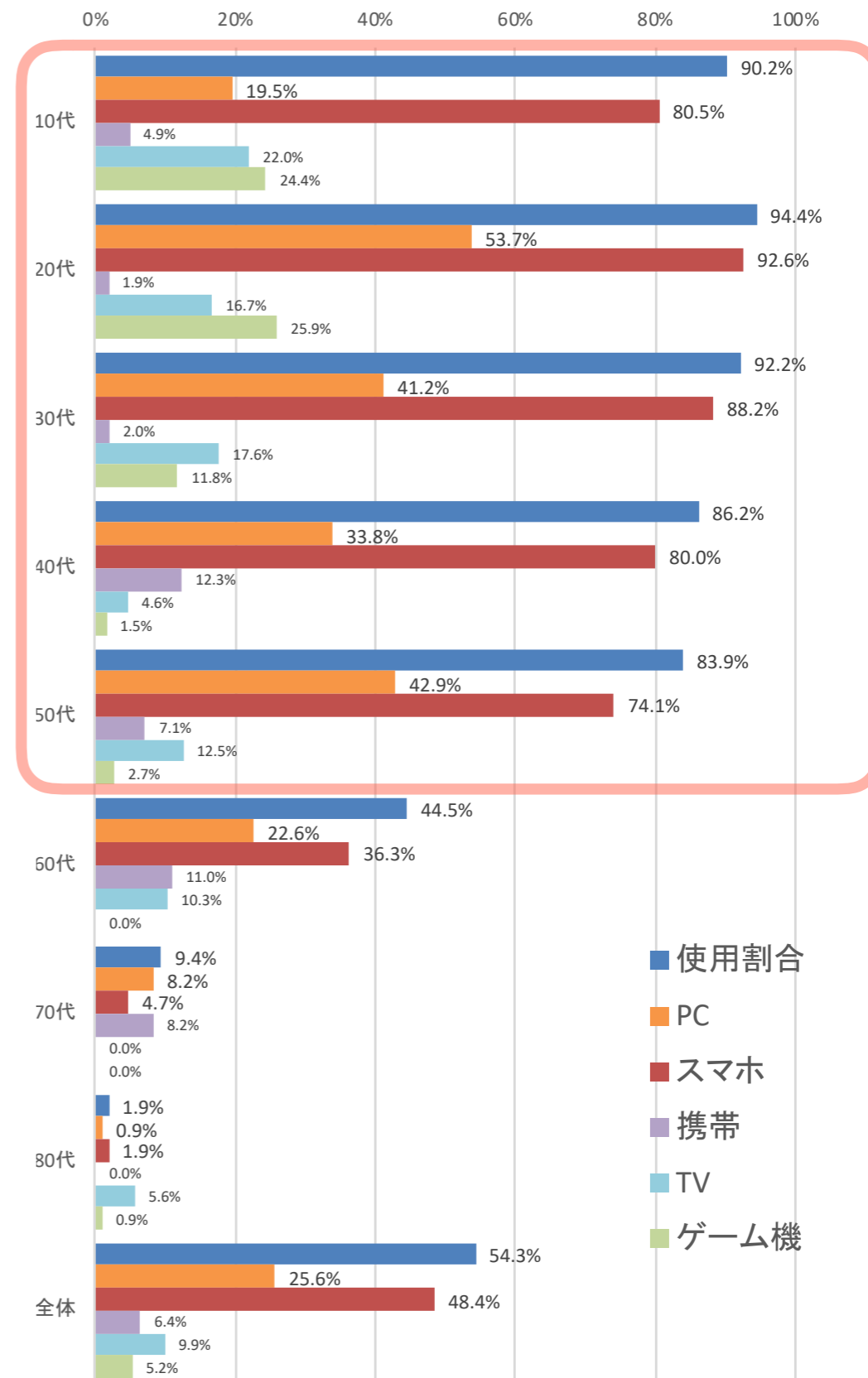
インターネットの利用割合

関川村女川地区 (2018)

年代別インターネットの利用率



年代別インターネット利用における使用機器

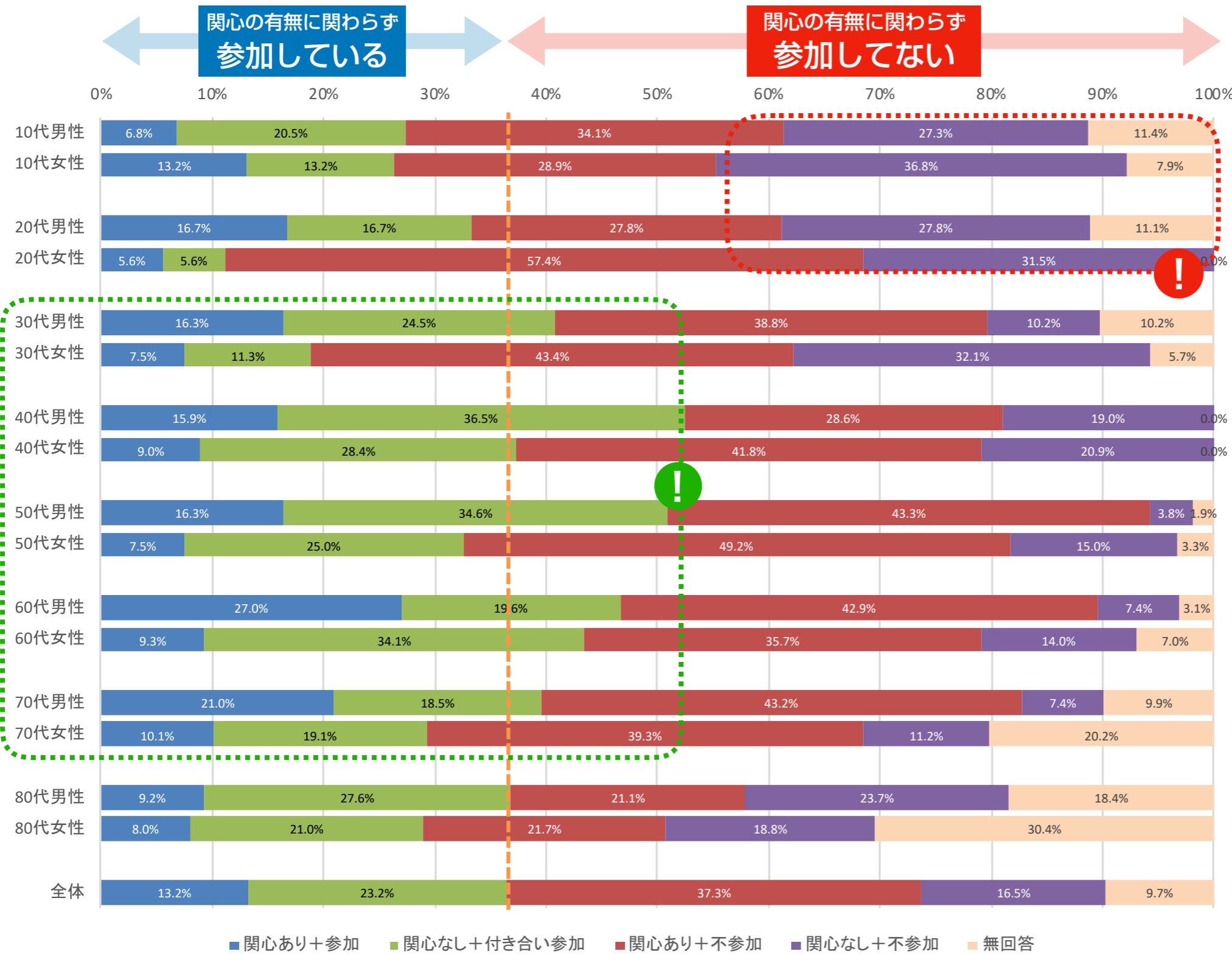


- 全体の半数がインターネットを利用。
- **30代以下は約9割**がインターネットを利用。(50代でも8割以上)
- **大半がスマホ・携帯**で利用している。
- インターネット利用者の**半数以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

地域活動への関心（年齢別・男女別）

関川村女川地区（2018）



現状は
30代男性
40～60代
70代男性
が頑張っているで回っている。

【注意！】
20代以下は
「関心は無く、参加したいとも
思わない」の割合が他の世代に
比べて高い！
→将来的に大丈夫？

関心はあるのに
参加していない人は
案外多い！

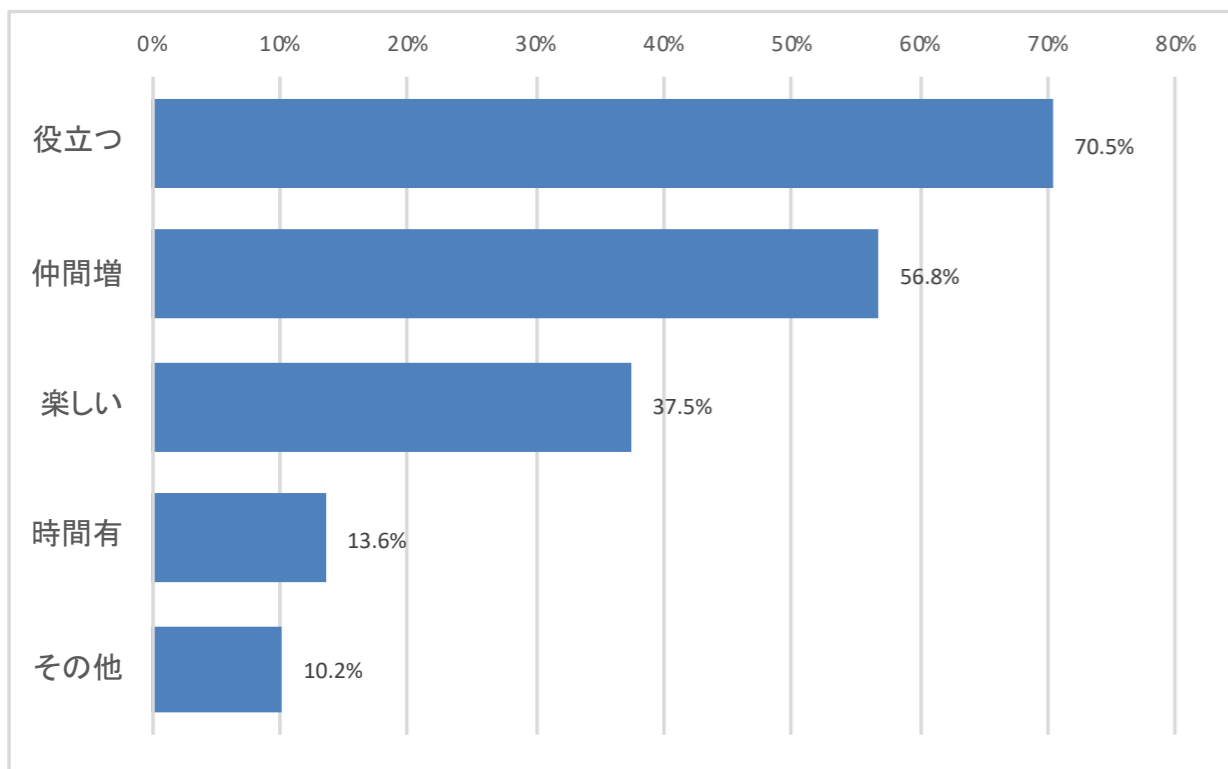
対話を通じて
理由を探ることが
大切！

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない。
女性は「関心があっても参加していない」割合が高い。

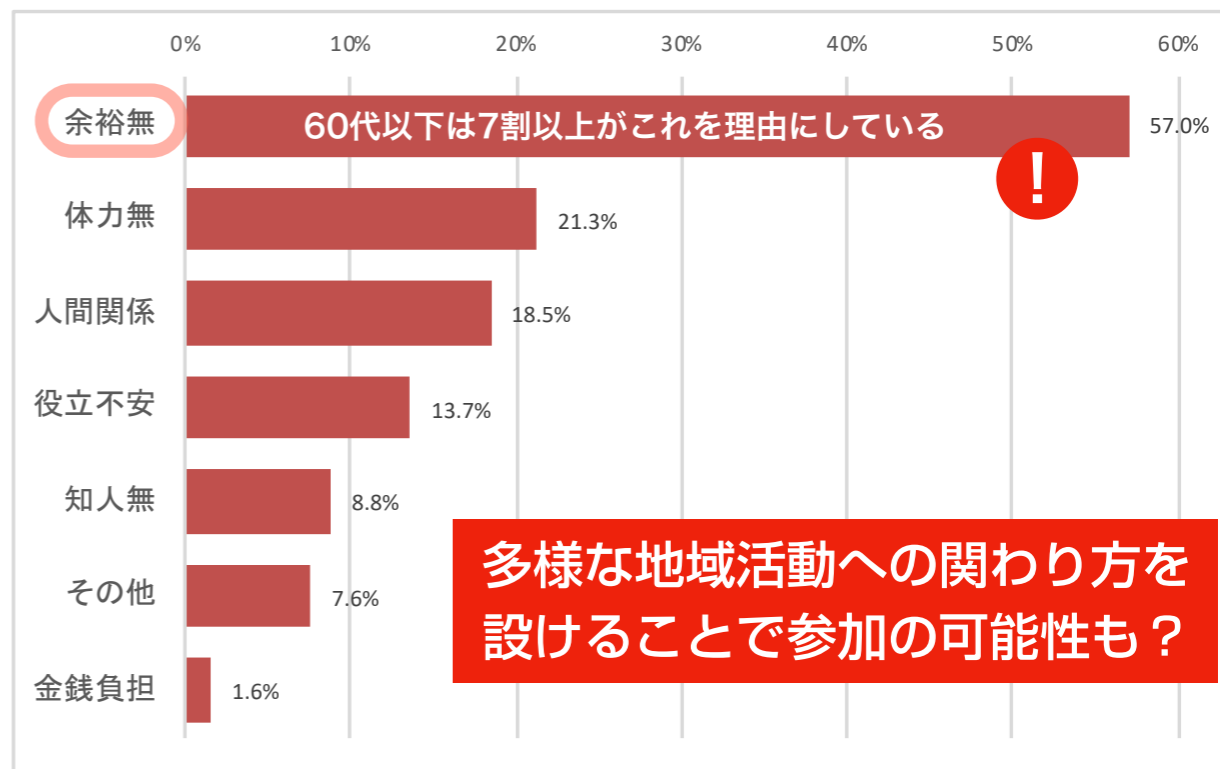
地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

関川村女川地区 (2018)

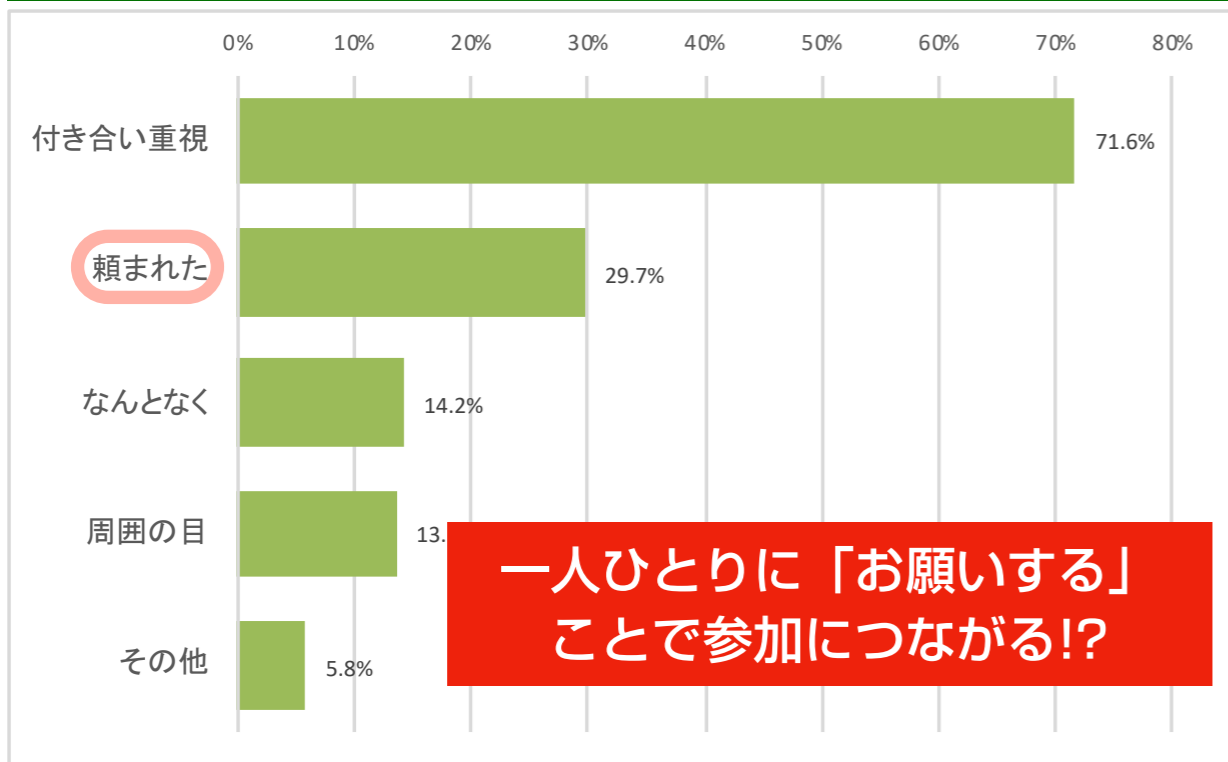
関心あり+参加の理由 (回答数88)



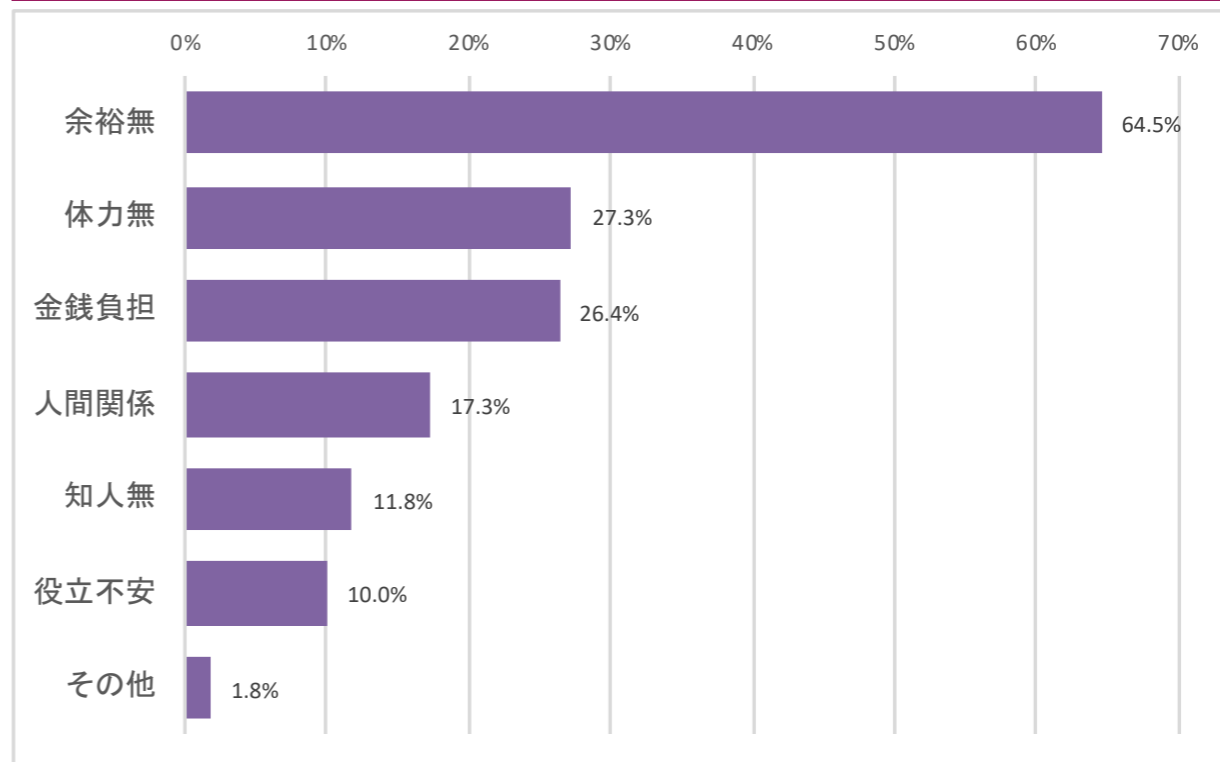
関心あり+不参加の理由 (回答数249)



関心なし+付き合い参加の理由 (回答数155)

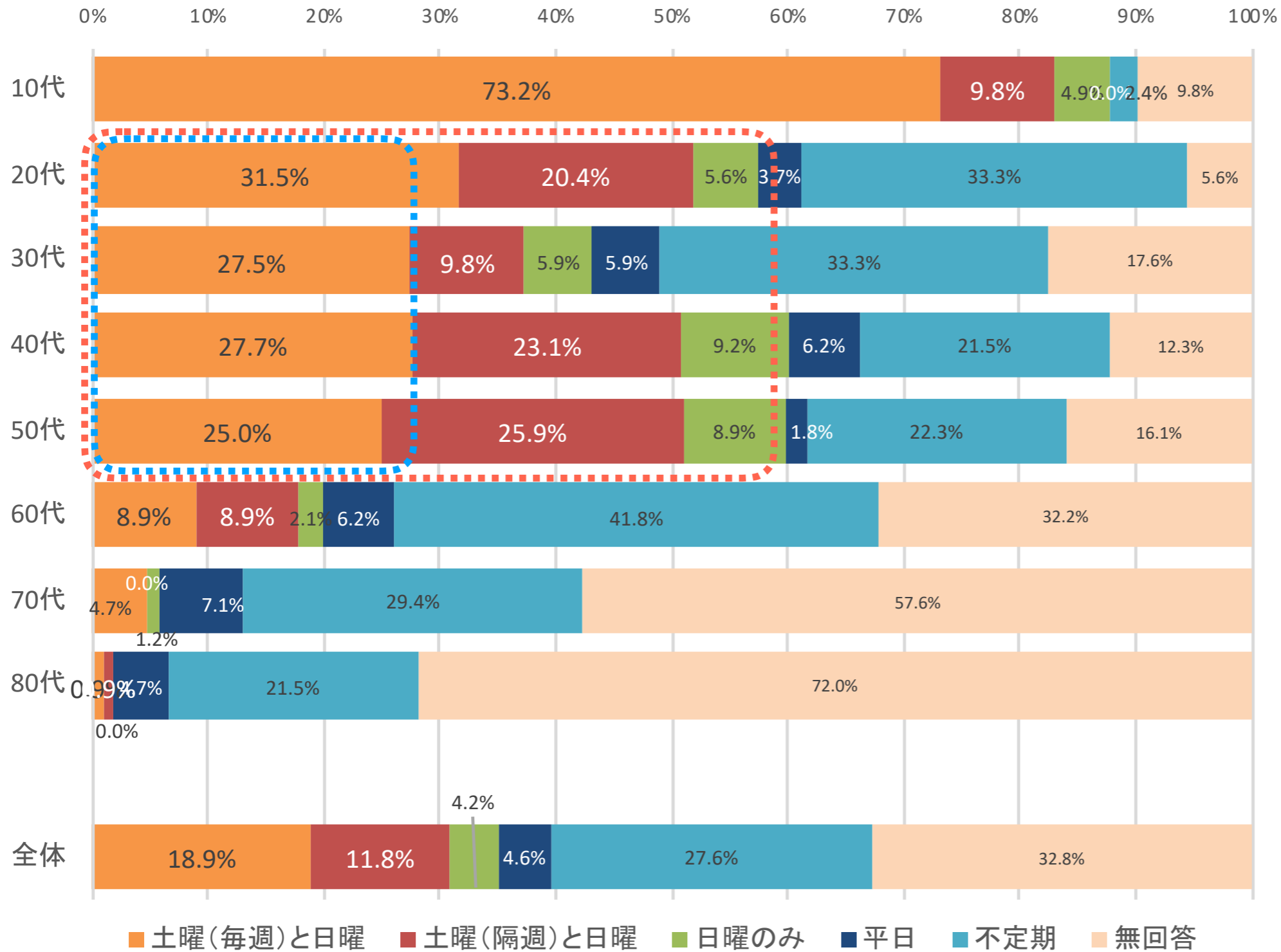


関心なし+不参加の理由 (回答数110)



休日はいつか？（年代別）

関川村女川地区（2018）



20~50代

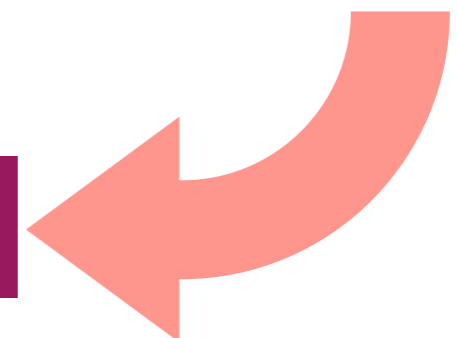
土曜日が毎週休み
3割以下

日曜日が毎週休み
5割以上

ただし30代は4割程度

休みが平日・不定期
約2~3割

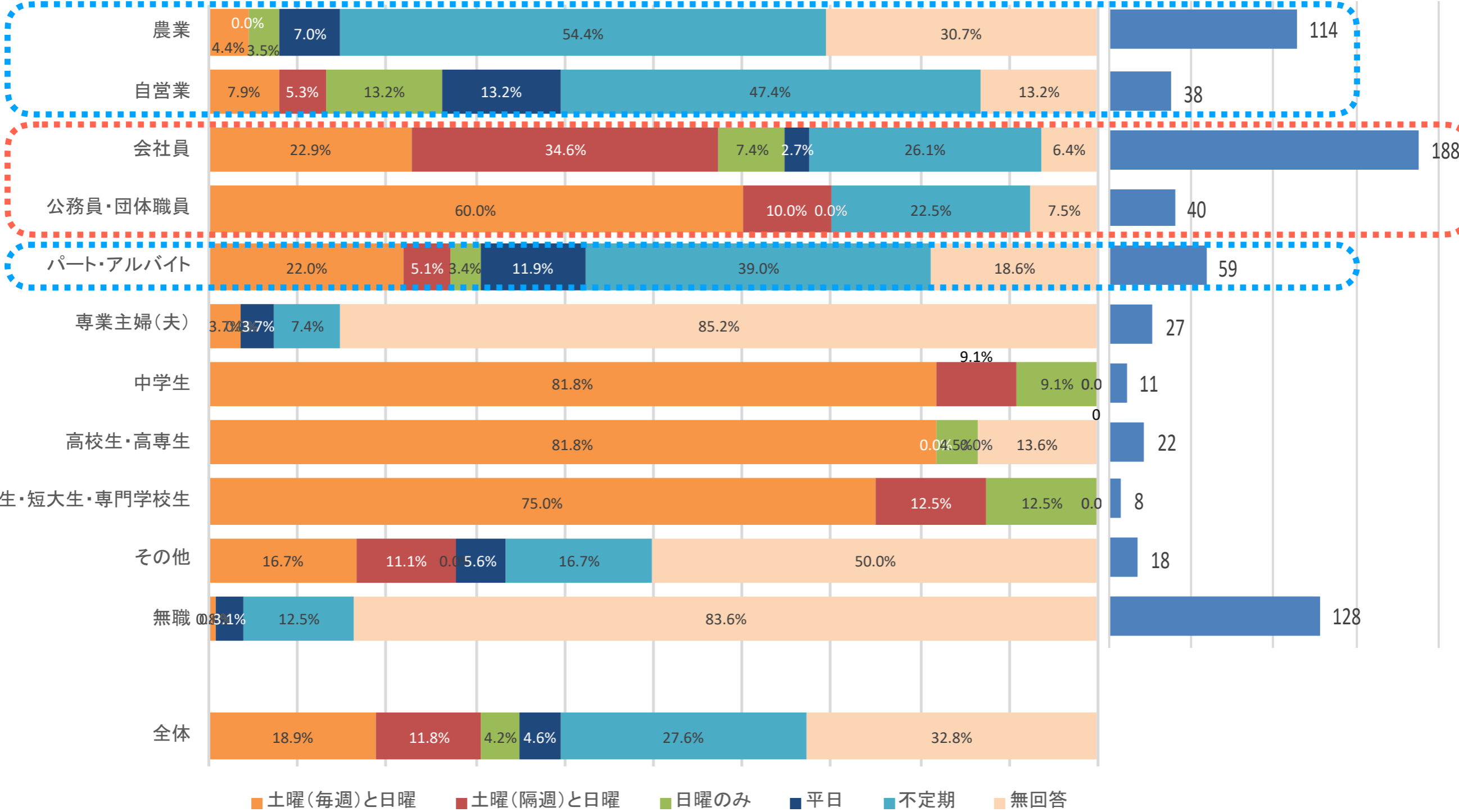
この世代の参加を求めるのであれば、配慮が必要！



休日はいづか？（職業別）

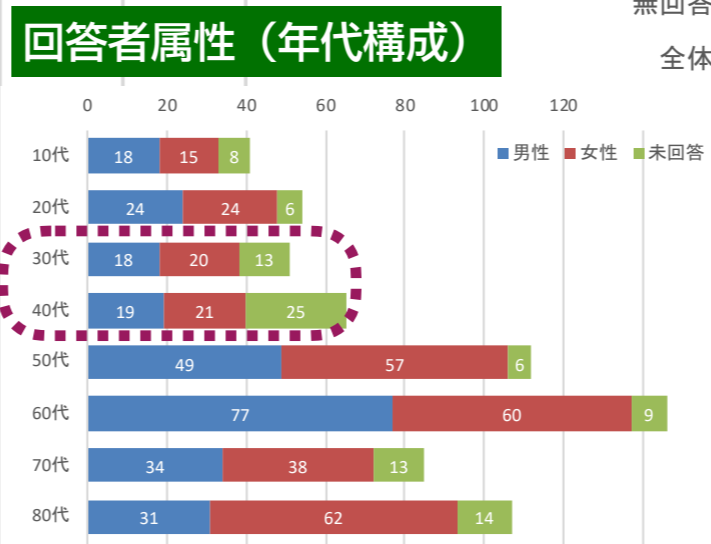
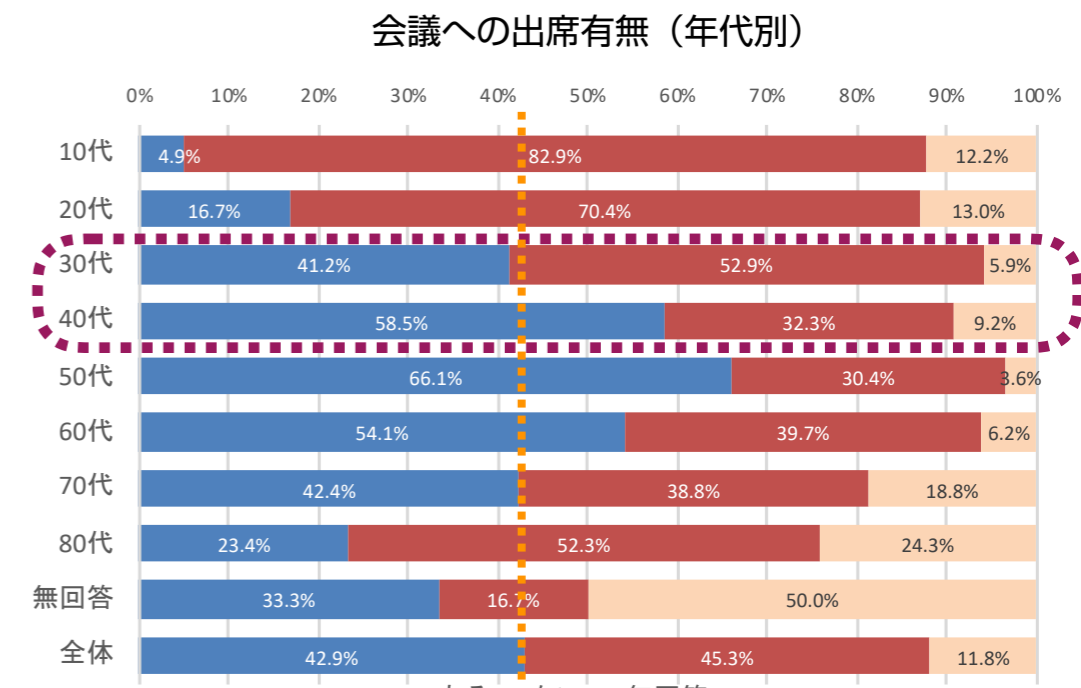
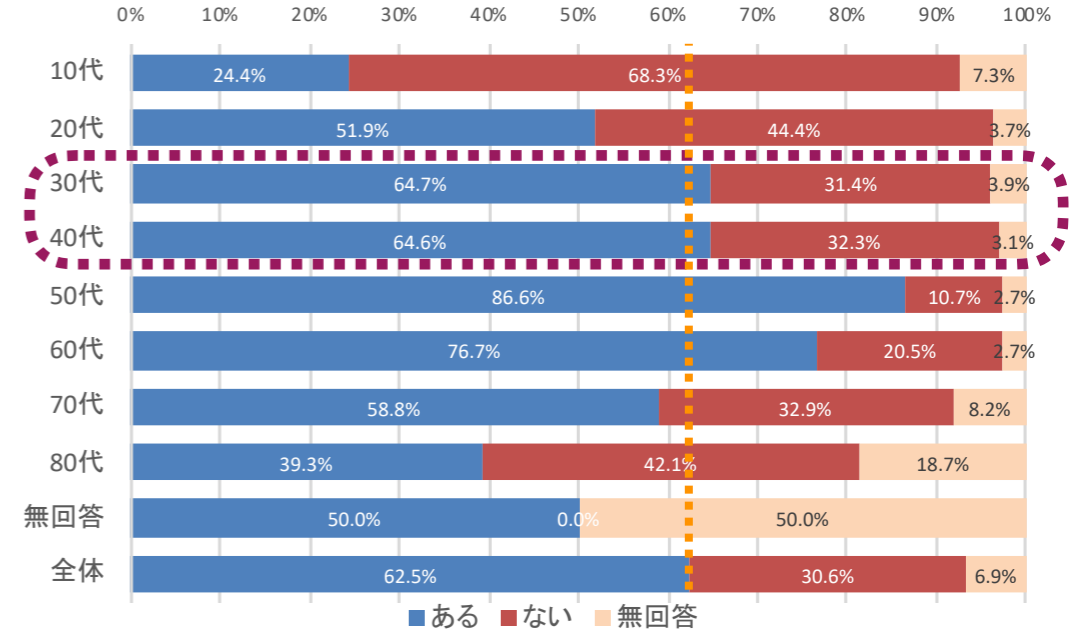
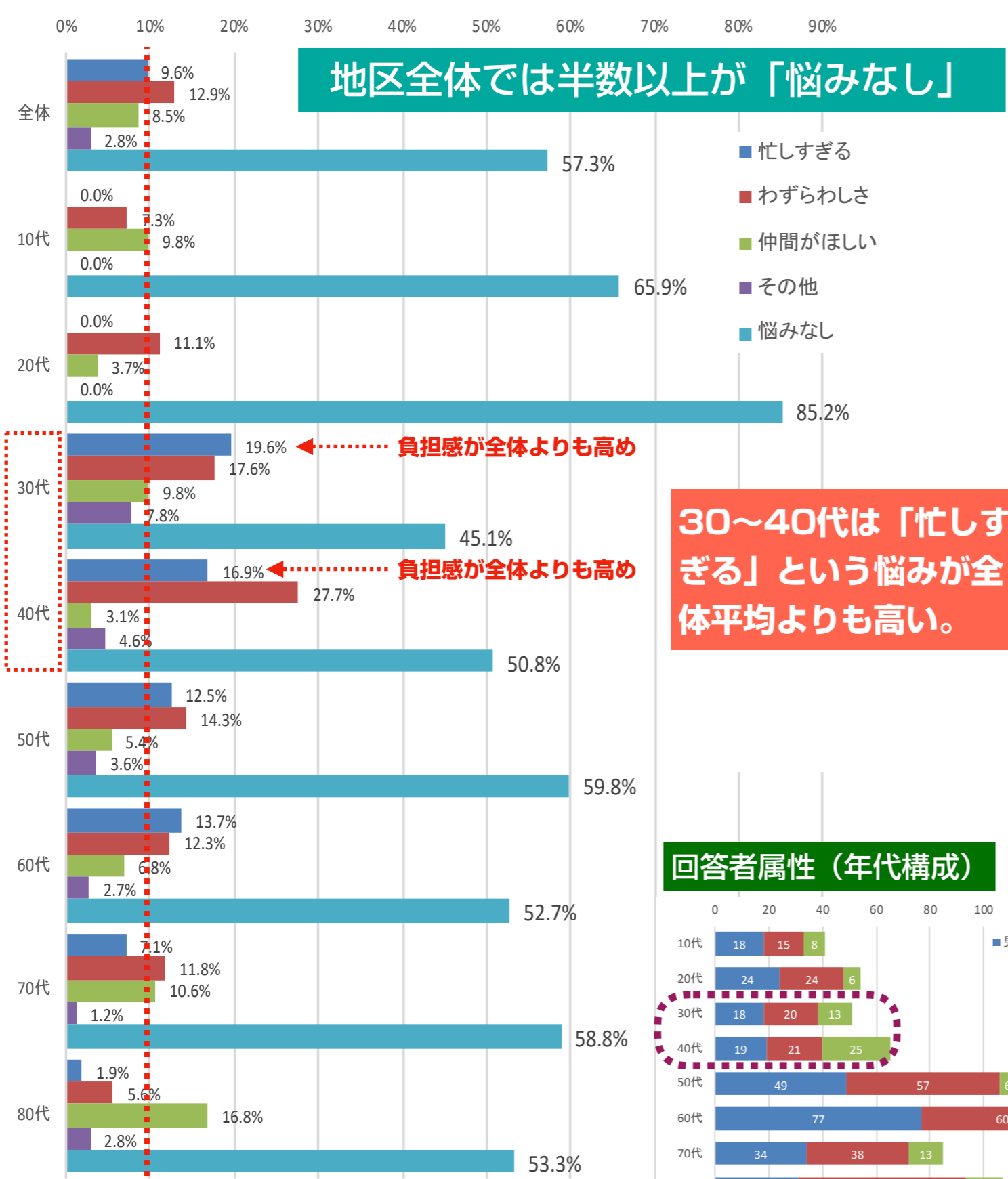
関川村女川地区（2018）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 回答者属性（職業別人数）



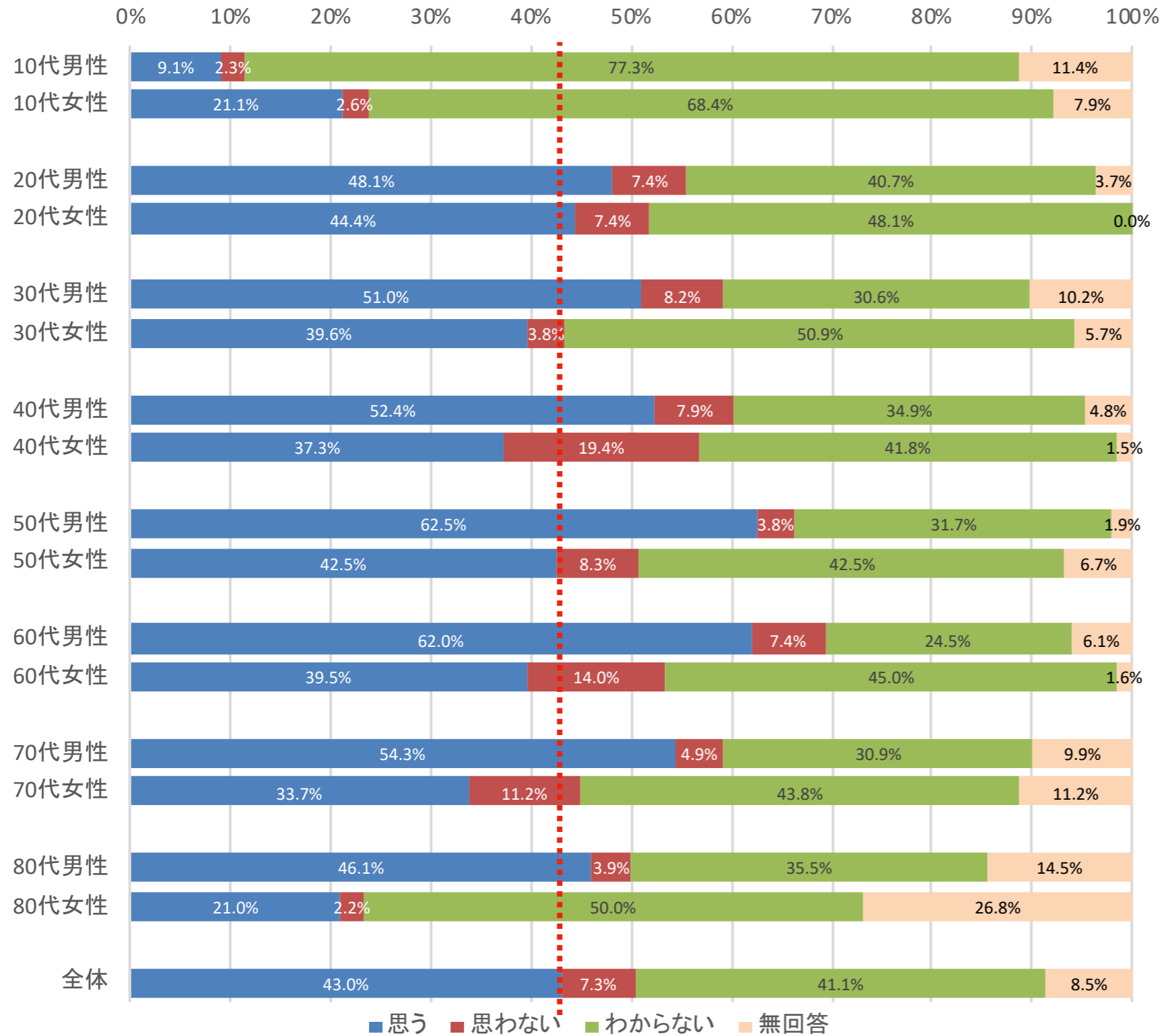
当たり前ではあるが職業によって休日は異なる → 行事・共同作業の曜日設定に配慮が必要

近所づきあいでの悩み / 会議出席・役員経験の有無 (年代別)

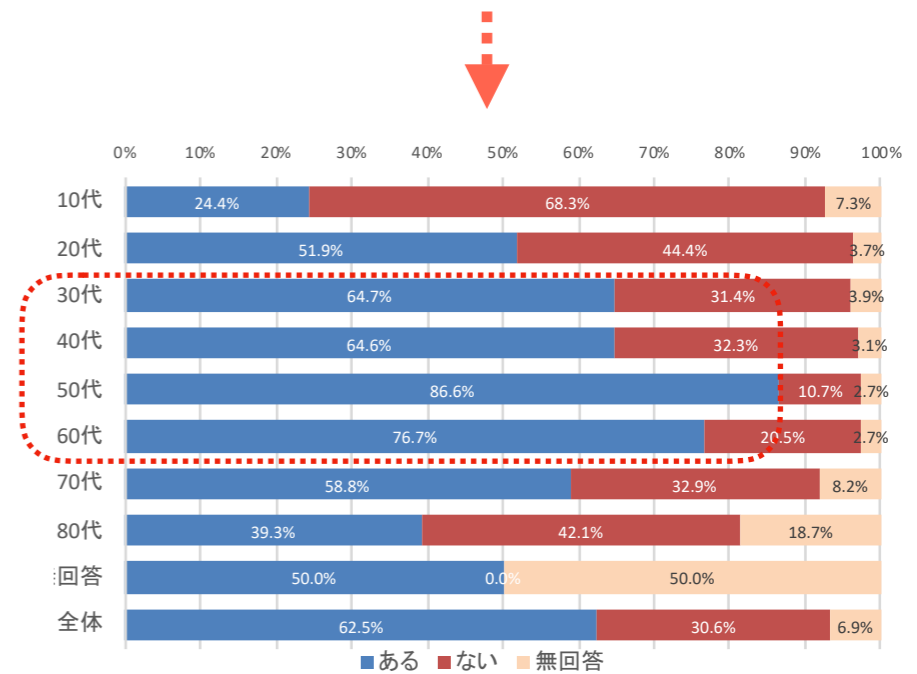


人は減っているのに、役割・仕事は変わっていないならば、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていくのに、このままの状況で大丈夫か？

女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別) 関川村女川地区 (2018)



【注目】
30～60代男性は半数以上が
声を反映すべきと回答



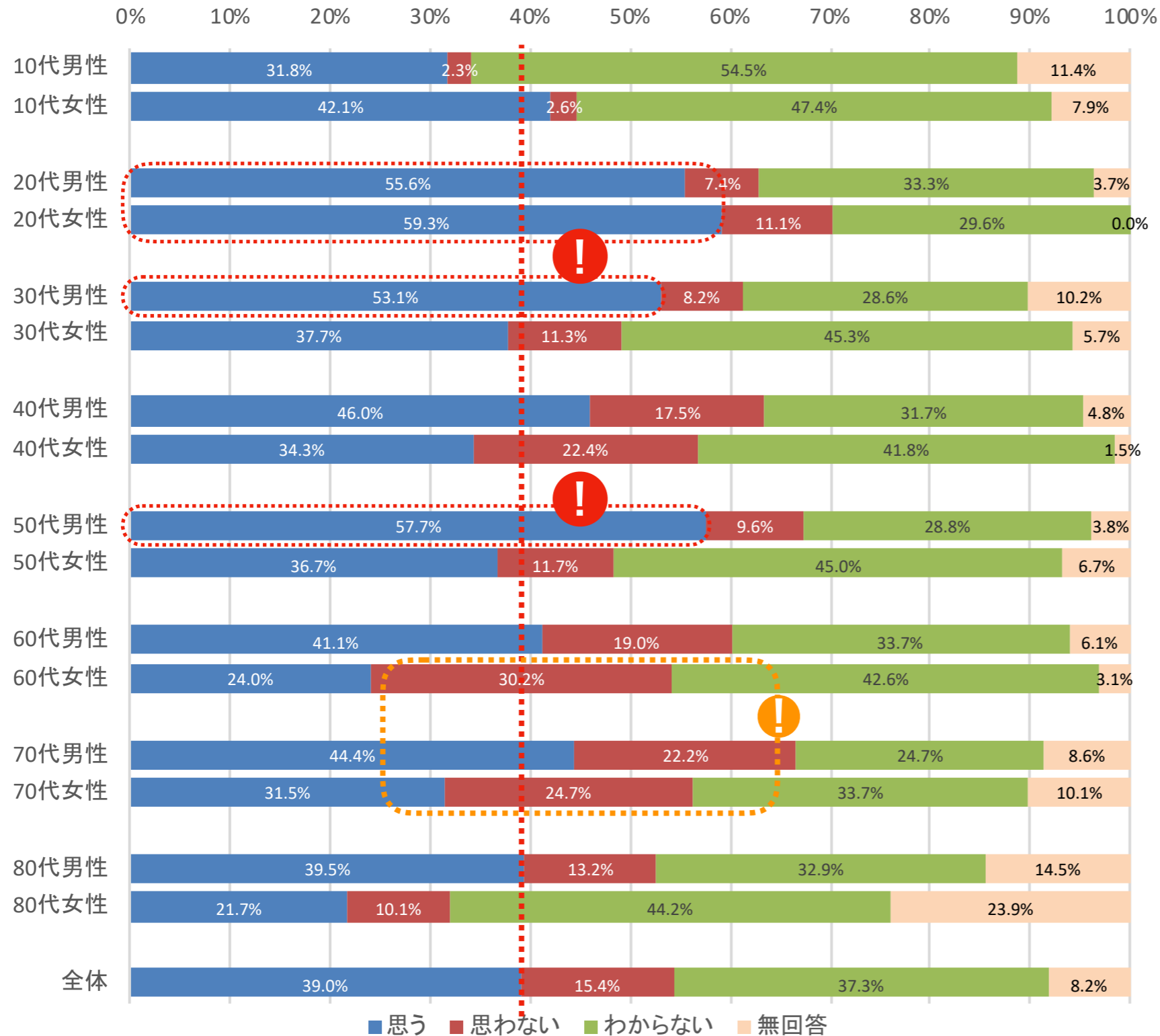
会議への出席有無 (年代別)

30～60代の会議出席経験率は高い
↓
会議のあり方・進め方を見直す必要性がある?!

地域全体では、「わからない」と「必要」がほぼ同じ割合
男性は必要性を感じているが、女性は「わからない」が多い

定住受入の必要性 (年代別×男女別)

関川村女川地区 (2018)



20代男性・女性
30代男性
50代男性
は**必要**という回答が
半数以上



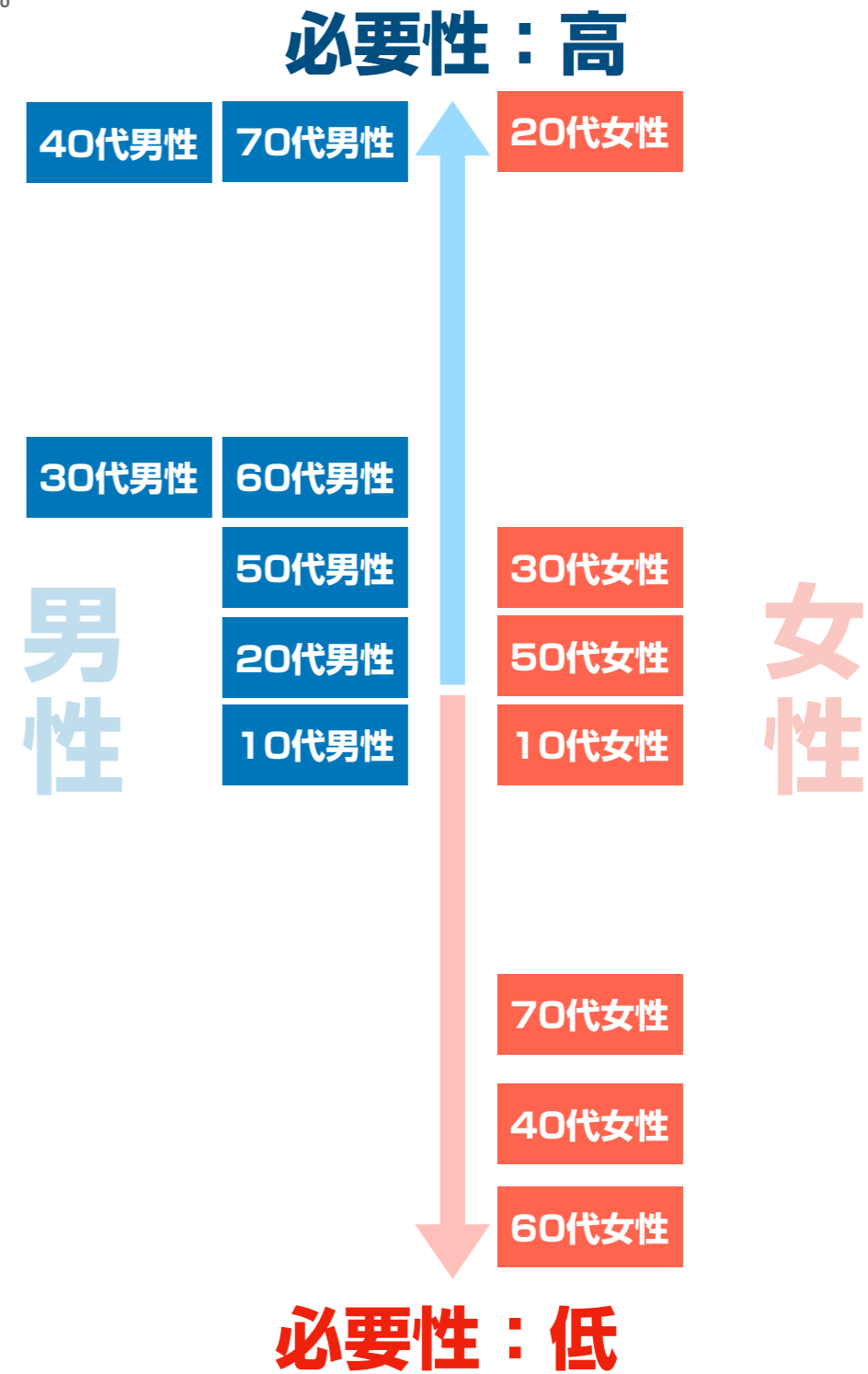
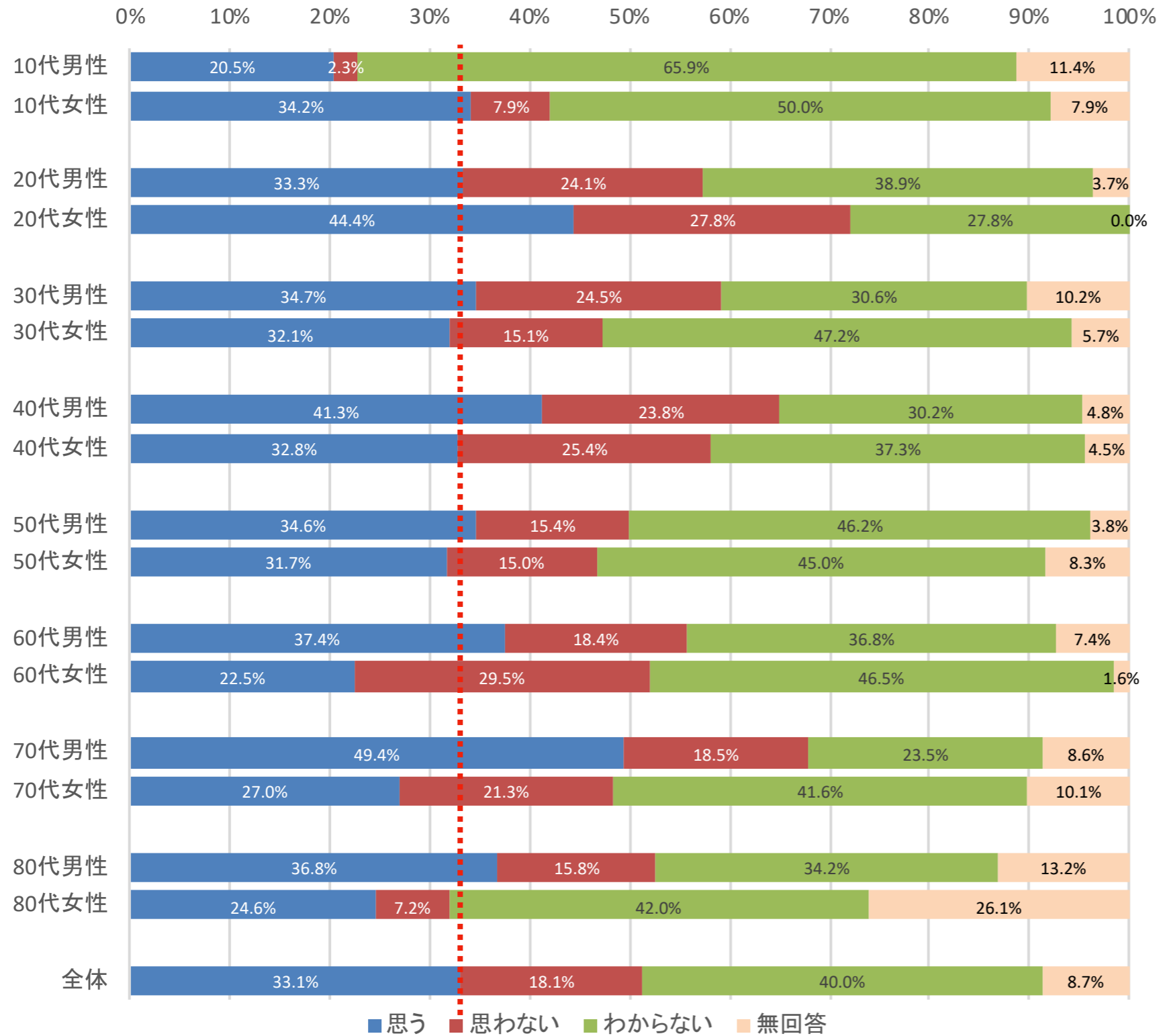
60代女性
70代男性・女性
は**必要ない**という
回答が比較的高め

地域全体では約4割が「必要」だと思っている。

若高壮低 / 男高女低という傾向

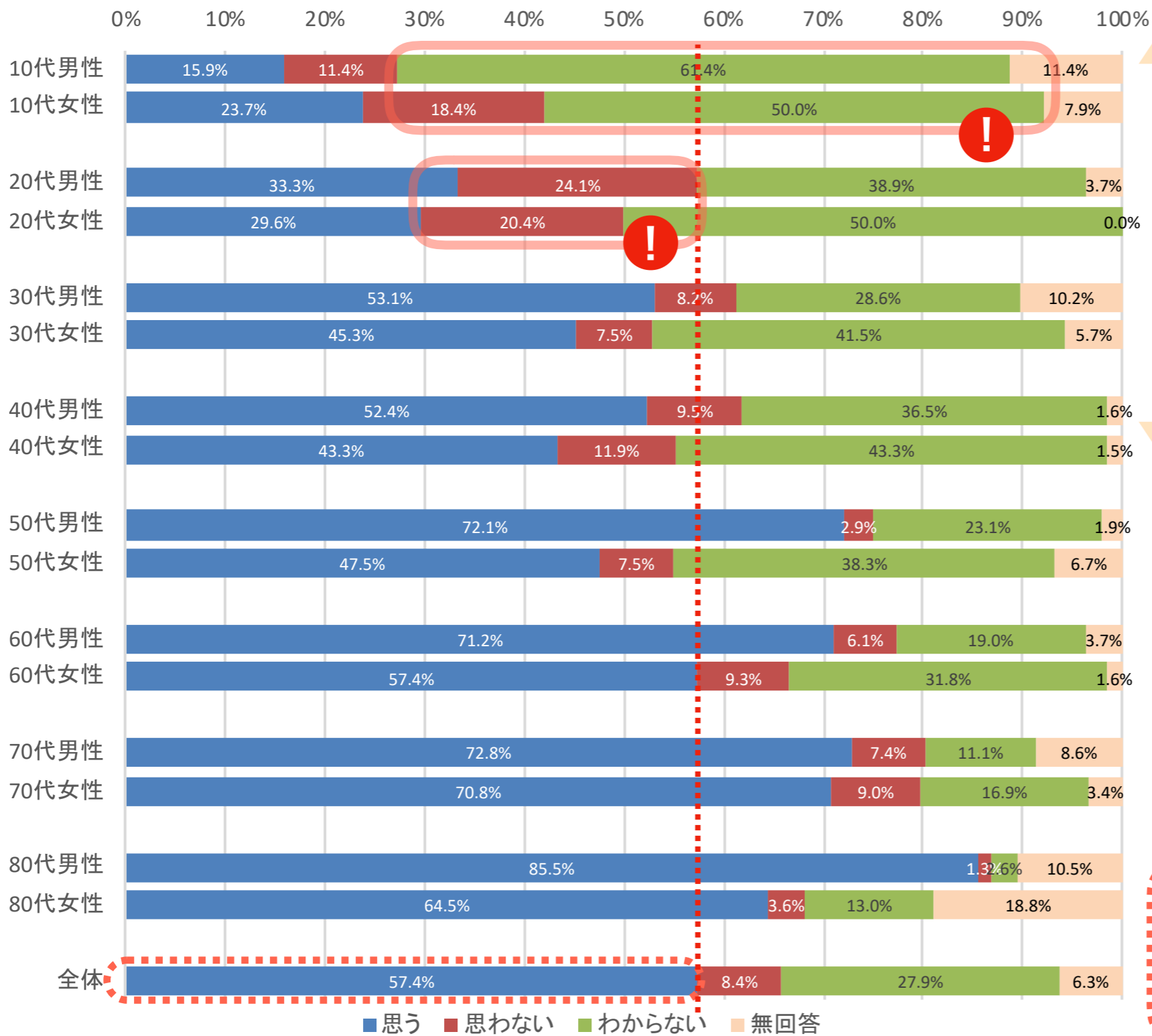
他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)

関川村女川地区 (2018)



地域全体では「わからない」という割合が4割。
男高女低傾向→年代性別によって温度差あり

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別) 関川村女川地区 (2018)

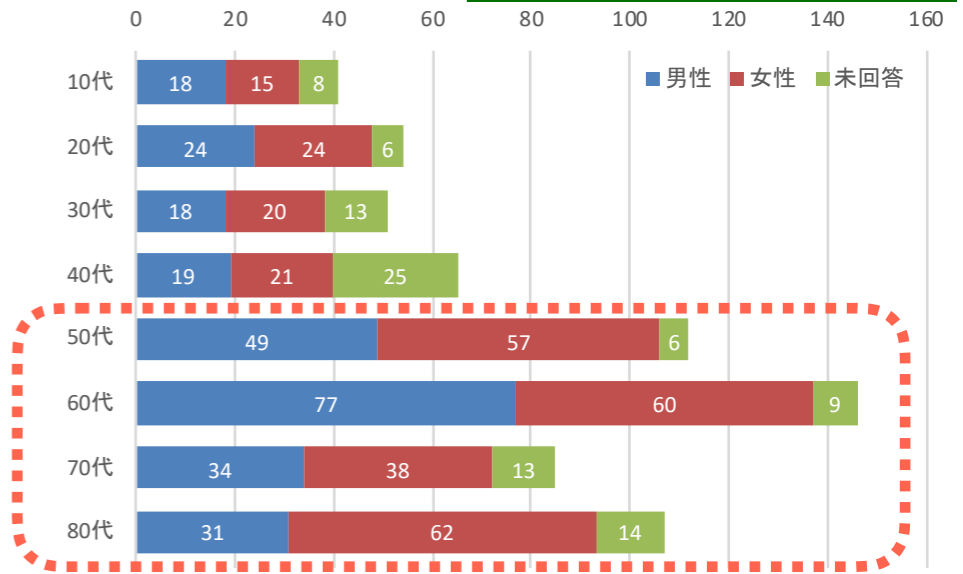


10代は半数以上が「わからない」

20代は2割以上が「思わない」

10~40代は
地区平均より低い

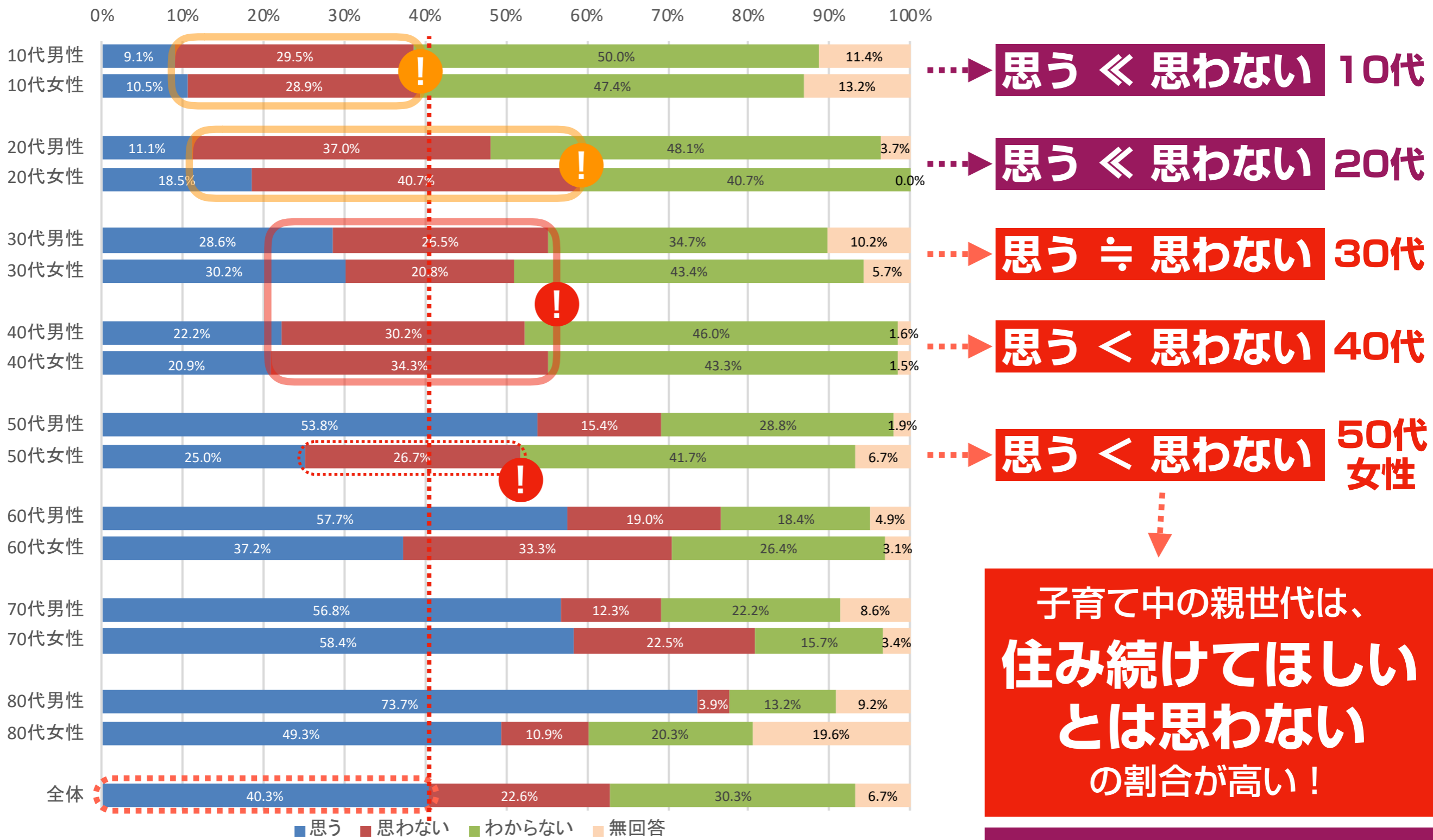
回答者属性 (年代構成)



地区全体では「住み続けたいと思う」は半数以上

多数派の意見が色濃く
反映された結果

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)



思う < 思わない 10代

思う < 思わない 20代

思う ≒ 思わない 30代

思う < 思わない 40代

思う < 思わない 50代女性

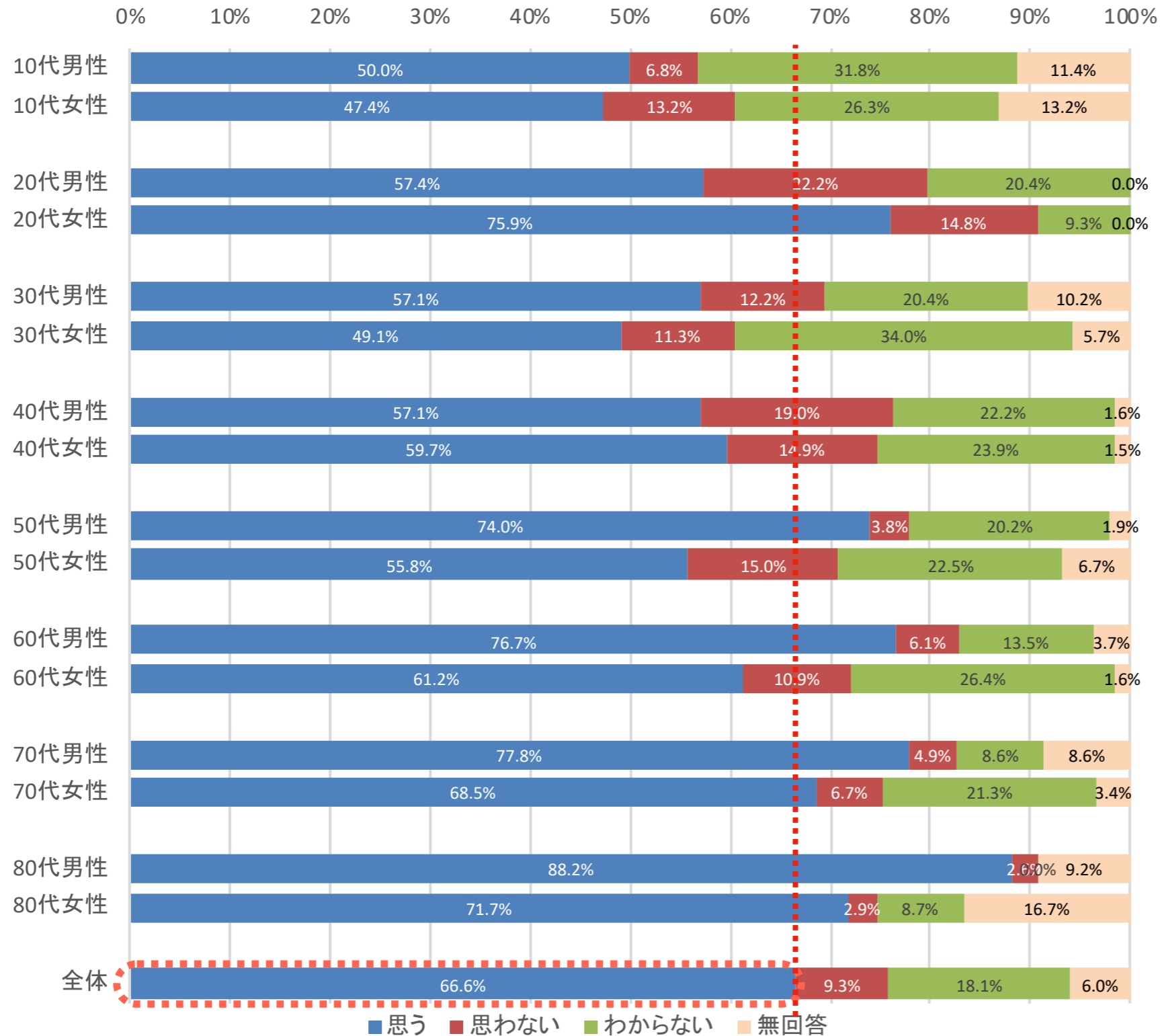
子育て中の親世代は、
住み続けてほしい
とは思わない
の割合が高い！

10代・20代は
「思わない」が高め

地区全体では「住み続けてほしい」は4割

地域への愛着の有無 (年代別×男女別)

関川村女川地区 (2018)



若年層でも約半分が「愛着がある」と回答

全体的に、**地域への愛着度は高い!**

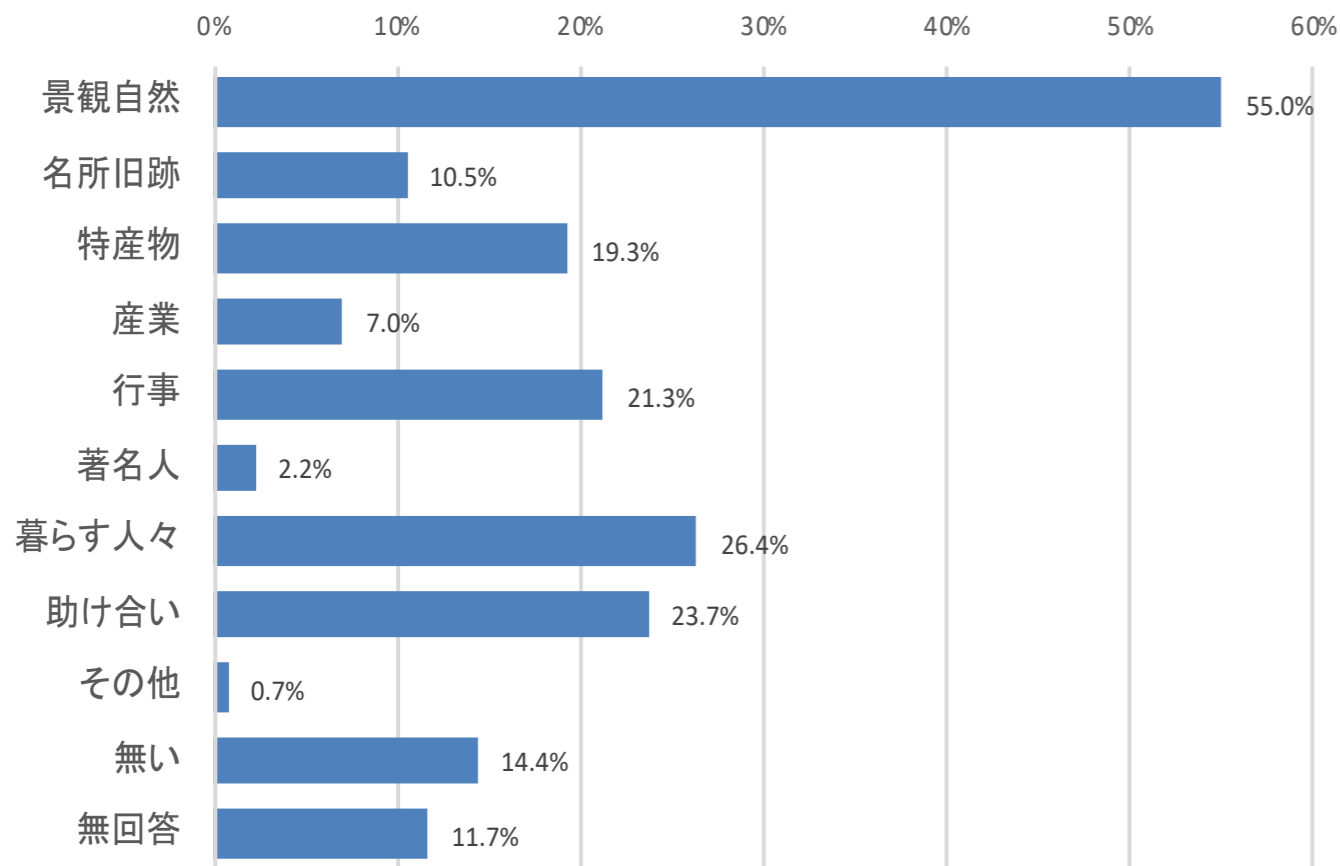
定住意向が低いのは、**生活環境**などに**不安を抱いている**現れ?!

全体の2/3が「愛着がある」

誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

関川村女川地区 (2018)

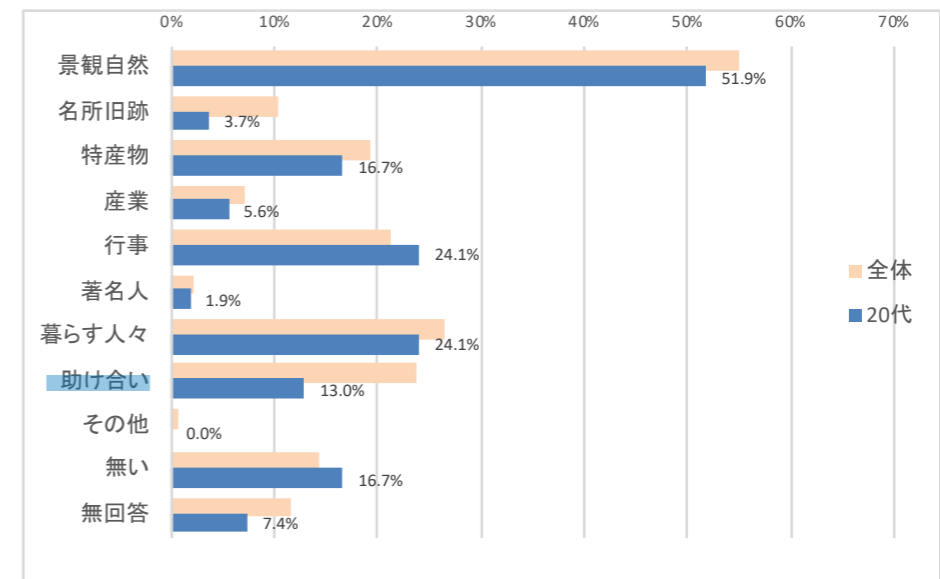
地区全体 (複数回答)



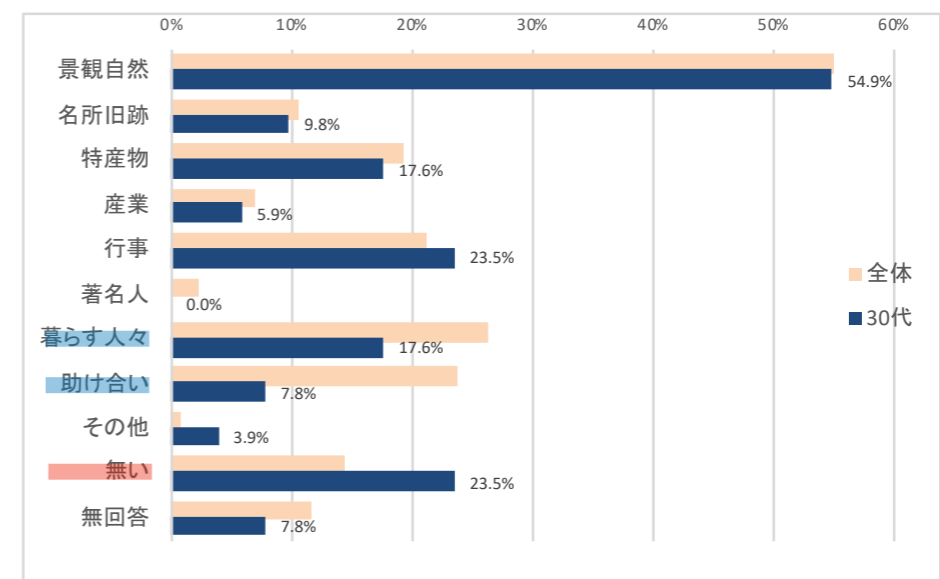
— 地区平均よりも高い

— 地区平均よりも低い

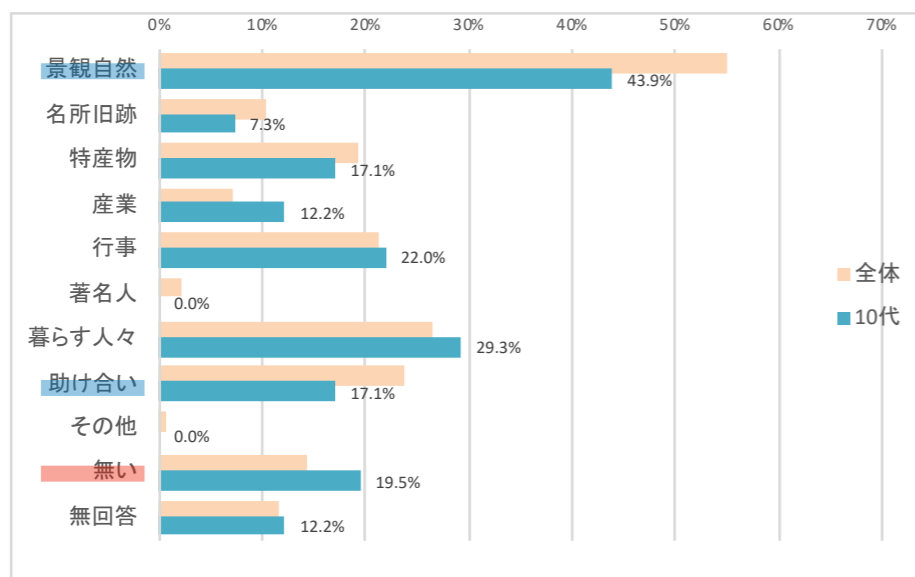
20代



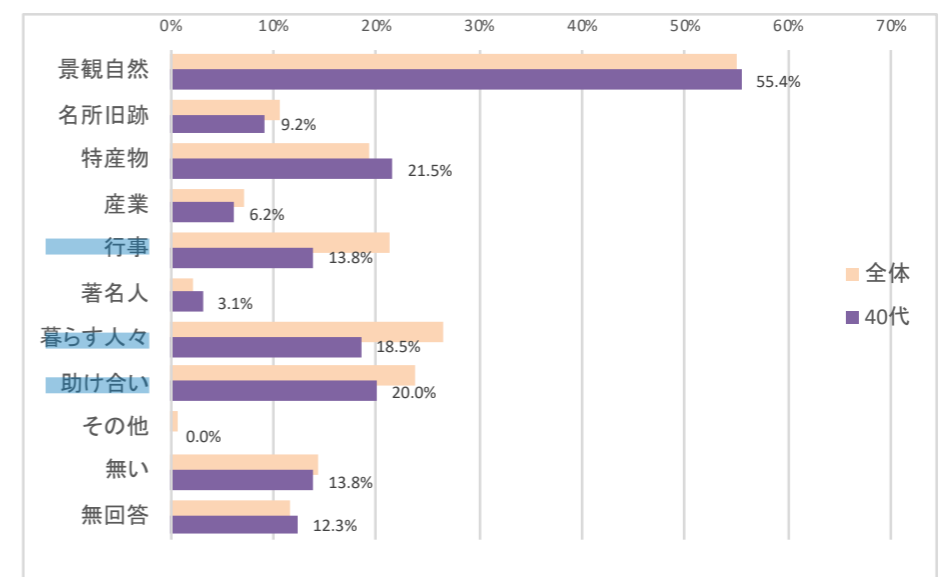
30代



10代



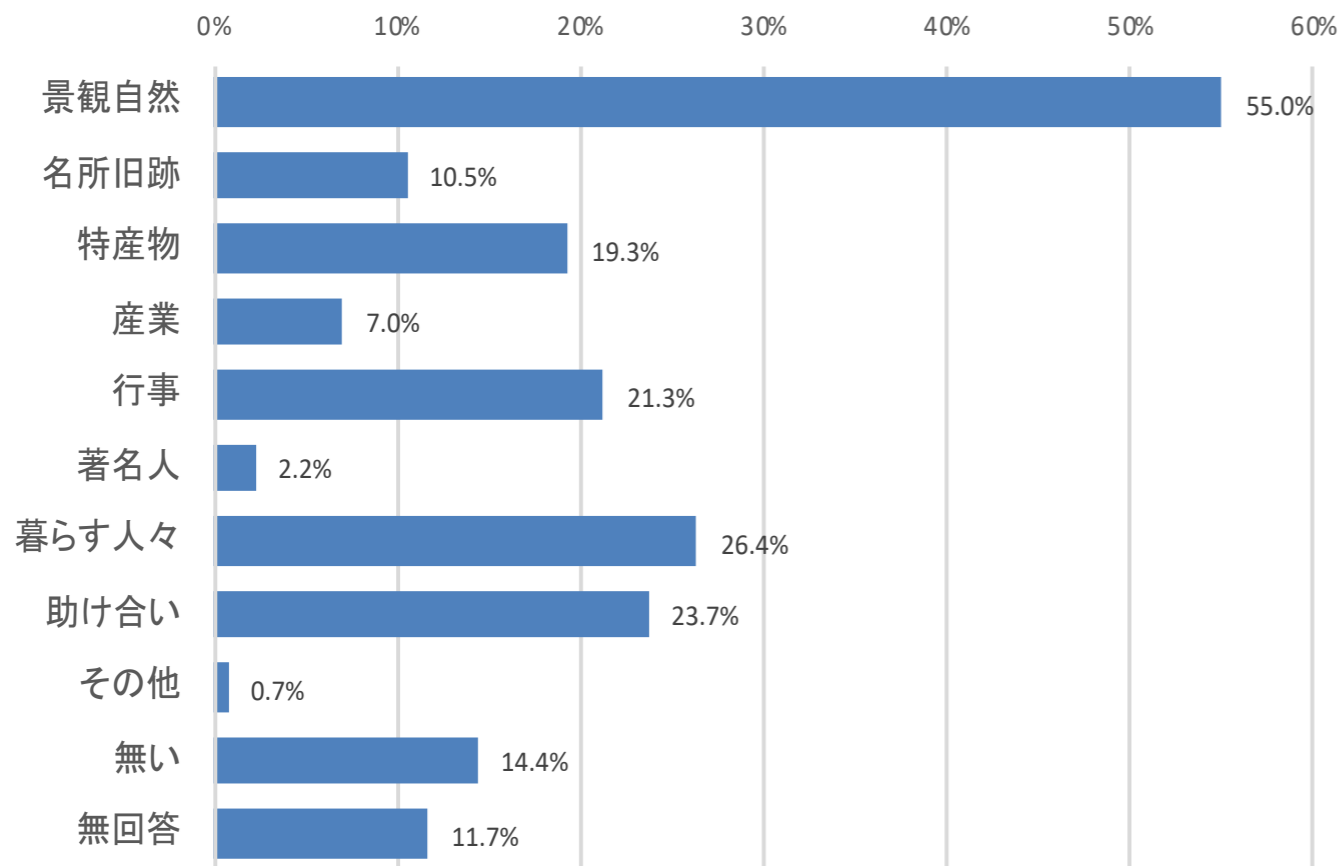
40代



誇りに思う地域資源は何か (50代~)

関川村女川地区 (2018)

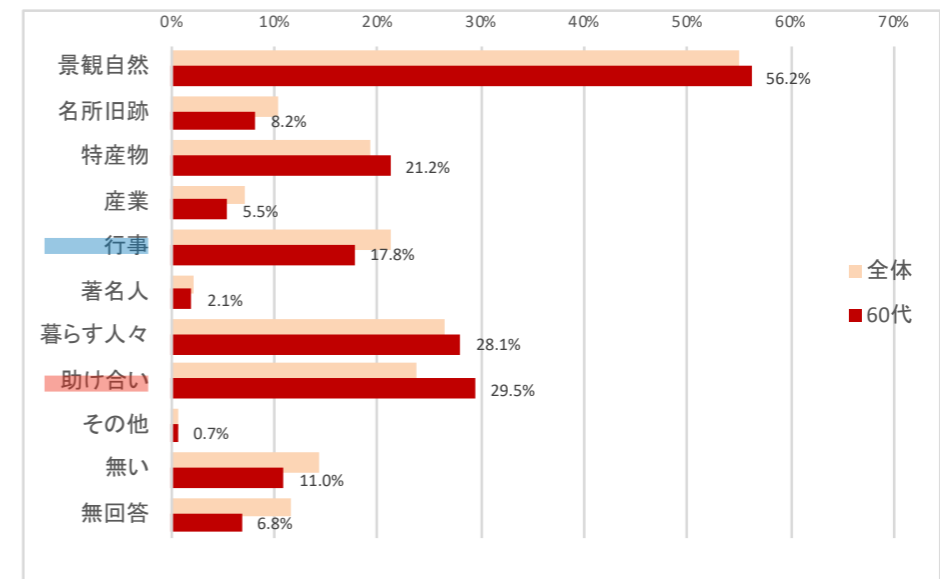
地区全体 (複数回答)



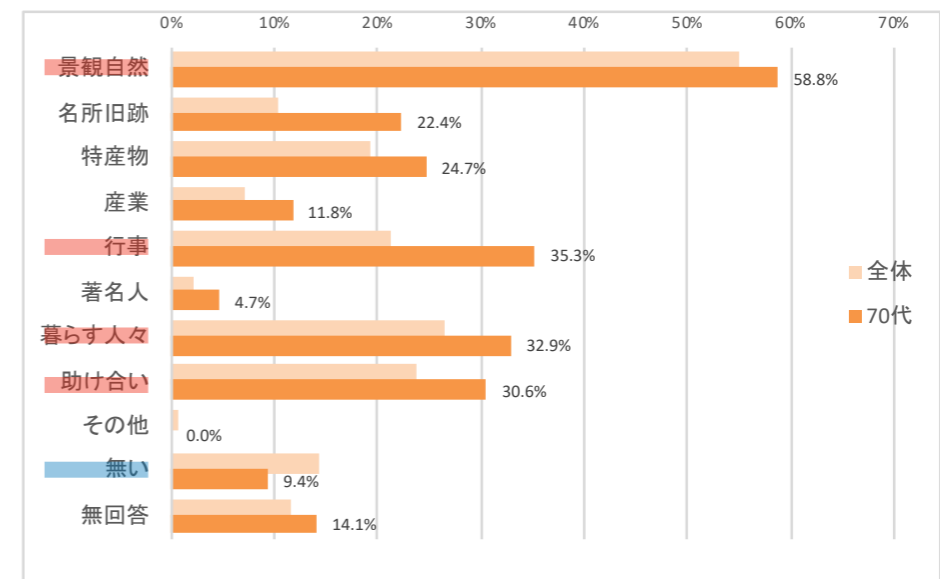
— 地区平均よりも高い

— 地区平均よりも低い

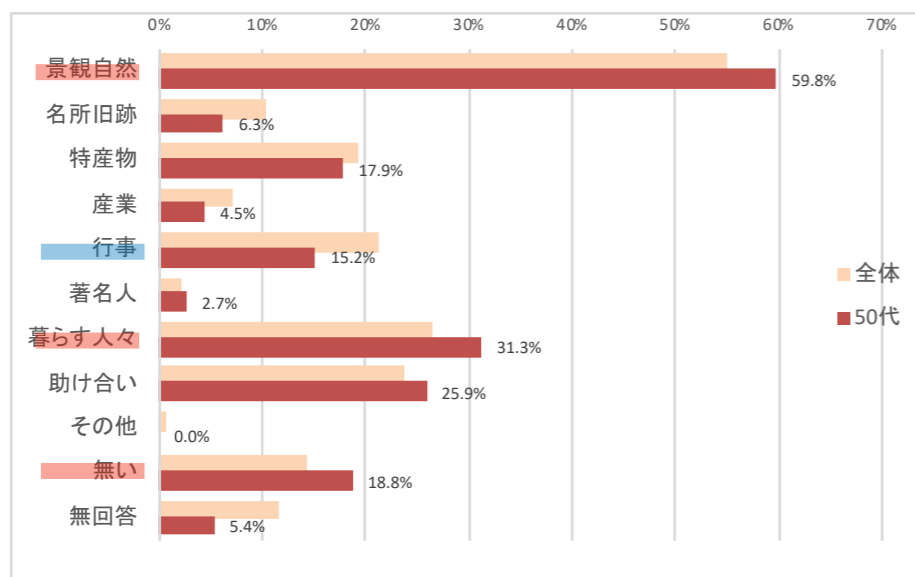
60代



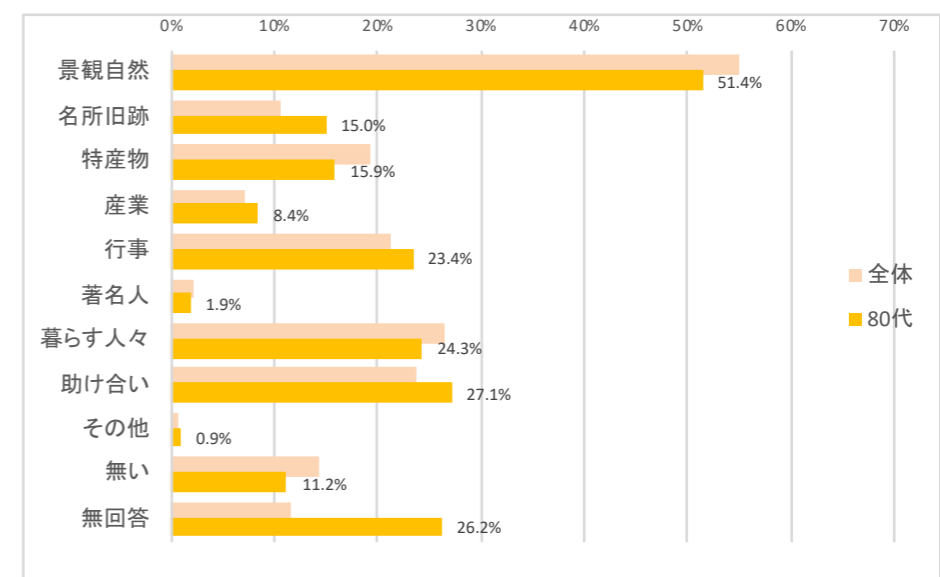
70代



50代



80代



暮らしの中の困りごと (複数回答)

10代

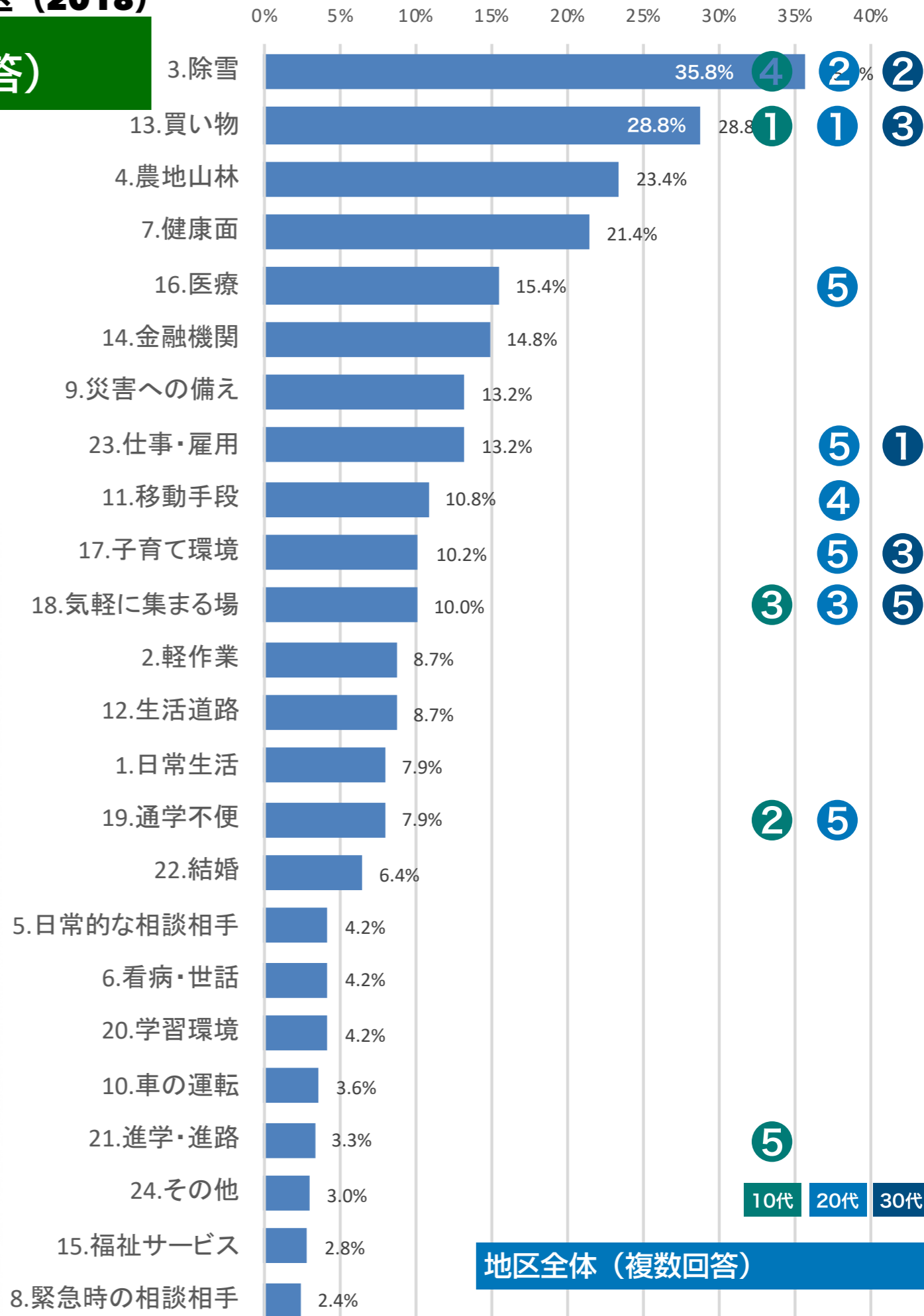
10代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	39.0%
2	学校が遠く、通学が不便である	22.0%
3	仲間と気軽に集まる場所がない	19.5%
4	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	17.1%
5	進学・進路に関すること	14.6%

20代

20代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	48.1%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.2%
3	仲間と気軽に集まる場所がない	20.4%
4	買い物・通院などの移動手段(交通手段)	16.7%
5	子育て環境 医療体制	14.8%
	通学不便 仕事・雇用	

30代

30代		
1	仕事・雇用	35.3%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	33.3%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	31.4%
	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	31.4%
5	仲間と気軽に集まる場所がない	25.5%



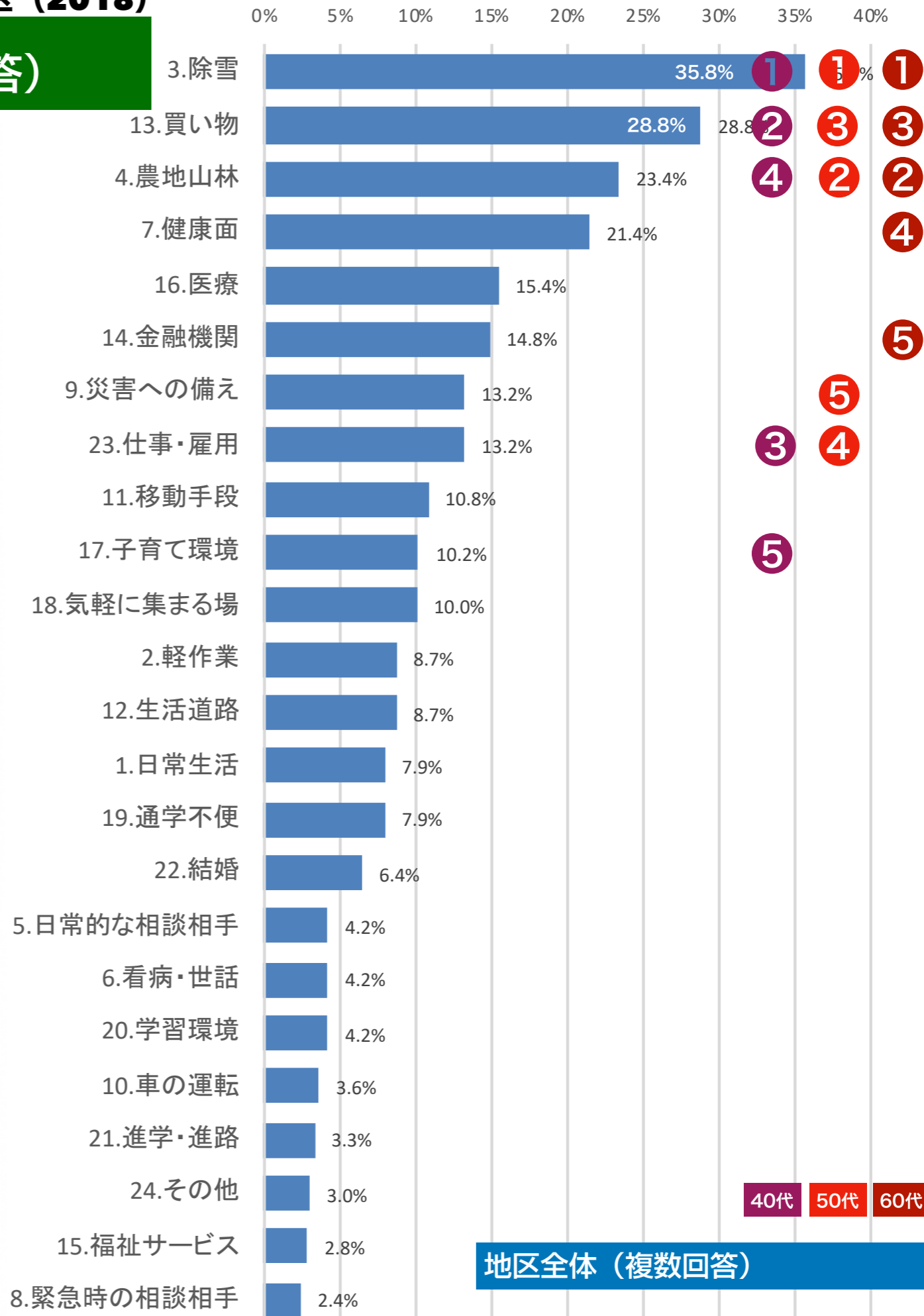
地区全体 (複数回答)

暮らしの中の困りごと (複数回答)

40代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	32.3%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	27.7%
3	仕事・雇用	26.2%
4	農地、山林の維持管理	23.1%
5	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	21.5%

50代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	46.4%
2	農地、山林の維持管理	34.8%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	27.7%
4	仕事・雇用	20.5%
5	災害への備えや避難	17.9%

60代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	38.4%
2	農地、山林の維持管理	28.8%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	25.3%
4	健康面への不安がある	24.0%
5	身近に預貯金を引き出せる金融店舗がない	14.4%

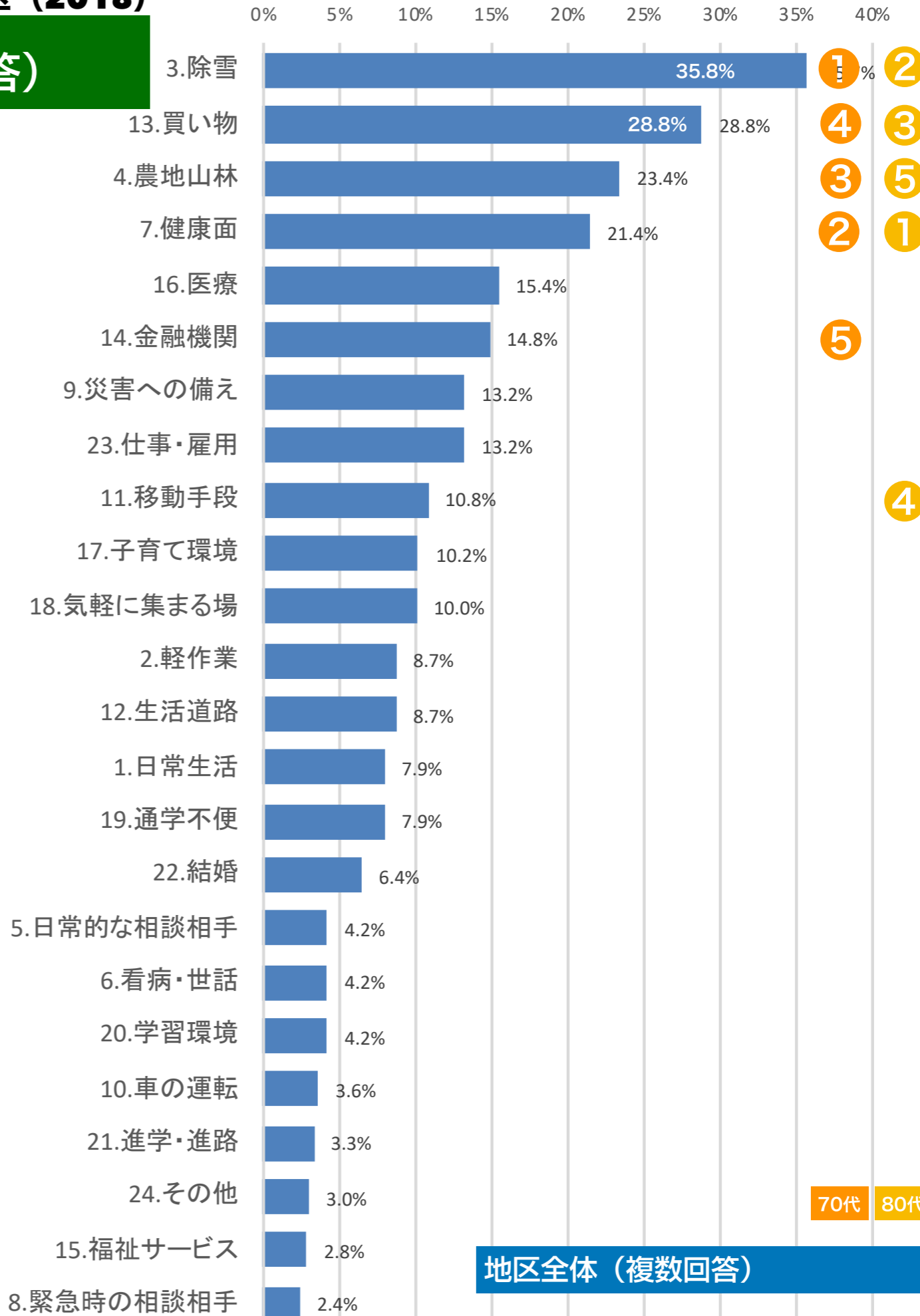
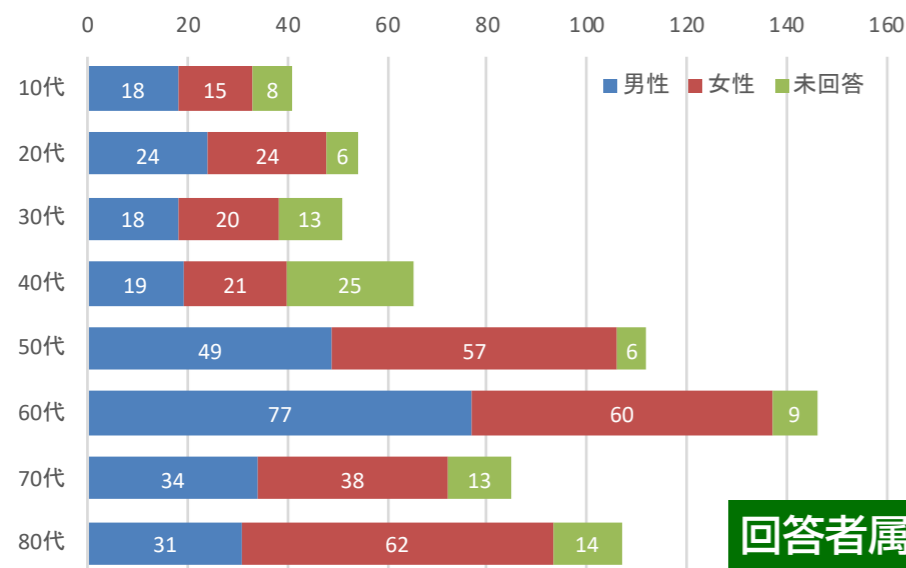


地区全体 (複数回答)

暮らしの中の困りごと (複数回答)

70代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	44.7%
2	健康面への不安がある	38.8%
3	農地、山林の維持管理	30.6%
4	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	29.4%
5	身近に預貯金を引き出せる金融店舗がない	27.1%

80代		
1	健康面への不安がある	38.3%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	31.8%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	20.6%
4	買い物・通院などの移動手段(交通手段)	19.6%
5	農地、山林の維持管理	17.8%



地区全体 (複数回答)

70代 80代

暮らしの中の困りごと (まとめ)

関川村女川地区 (2018)

第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 35.8%

すべての世代で上位にランクイン (40~70代ではトップ/20~30代は2位)
→20~60代は担い手不足への懸念、70代以上は作業自体への不安?

第2位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 28.8%

すべての世代で上位にランクイン →地域全体で共通する困りごと

第3位 農地や山林の維持管理 23.4%

40代以降になると上位にランクイン (特に50~60代は強く不安を感じている)

第4位 健康面への不安がある 21.4%

60代以降になると上位にランクイン

第6位 身近に預貯金を引き出せる金融店舗がない 14.8%

60~70代のみ上位にランクイン →高齢層特有の困りごと

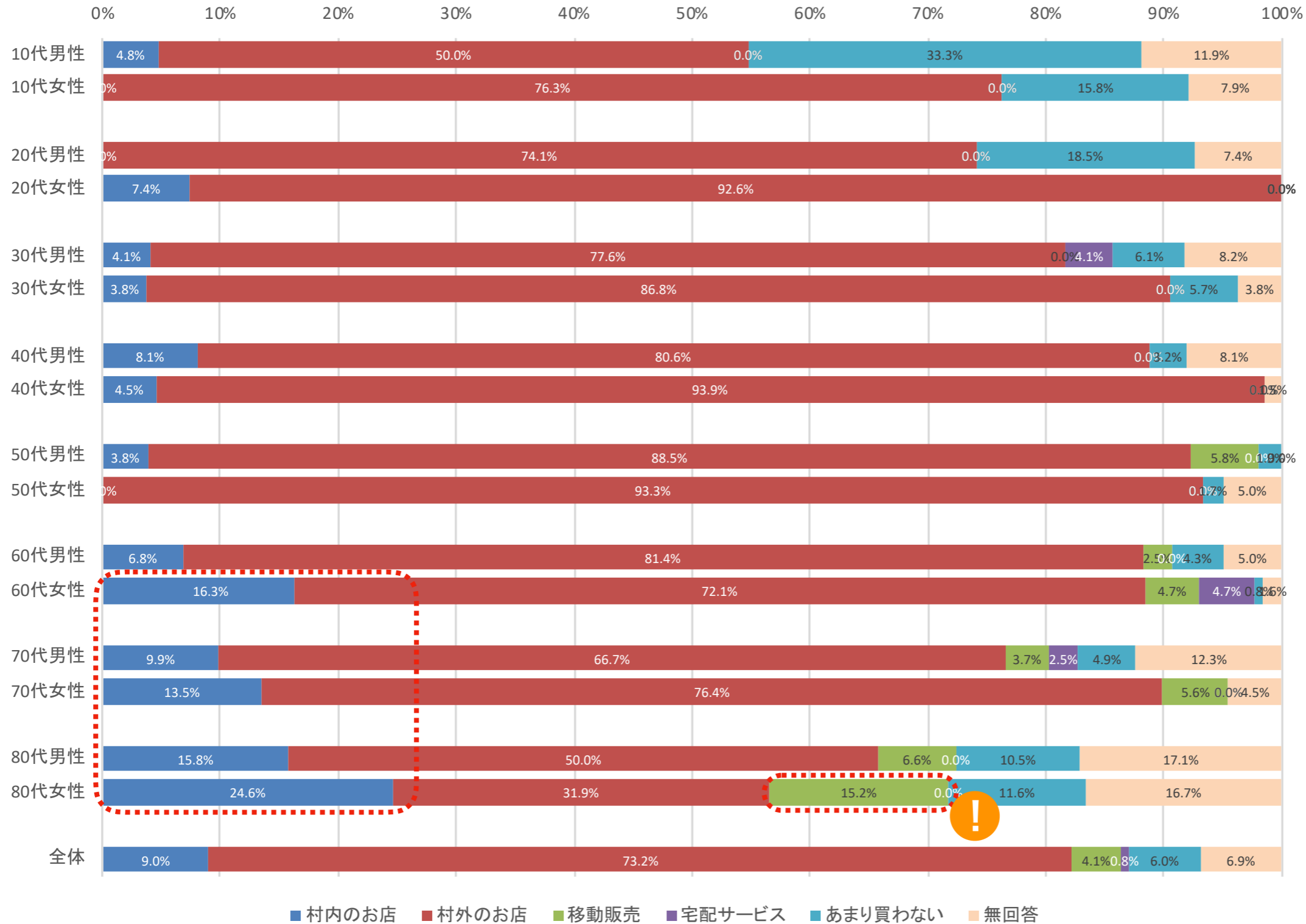
第11位 仲間と気軽に集まる場所がない 10.0%

10~30代のみ上位にランクイン →若年層特有の困りごと

全体での順位は高くはないが、特定の世代特有の困りごと

生鮮食品の購入場所

関川村女川地区 (2018)



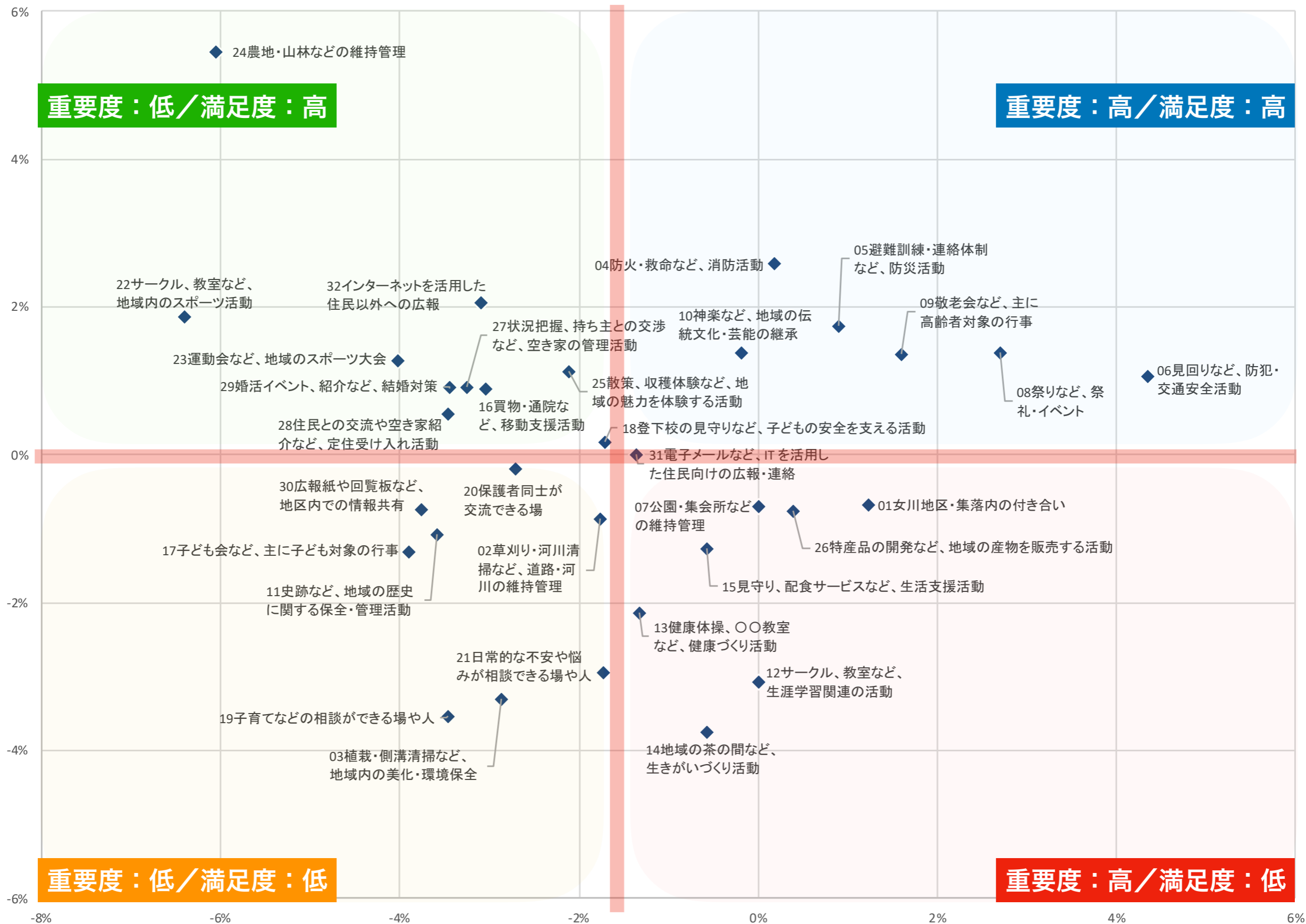
80代女性は
移動販売の
利用が高め

60代から村内のお店で購入する割合が増加。
80代女性は1/4が村内のお店を利用している。

取り組みの満足度と重要度

関川村女川地区 (2018)

満足度率



重要度：低 / 満足度：高

重要度：高 / 満足度：高

重要度：低 / 満足度：低

重要度：高 / 満足度：低

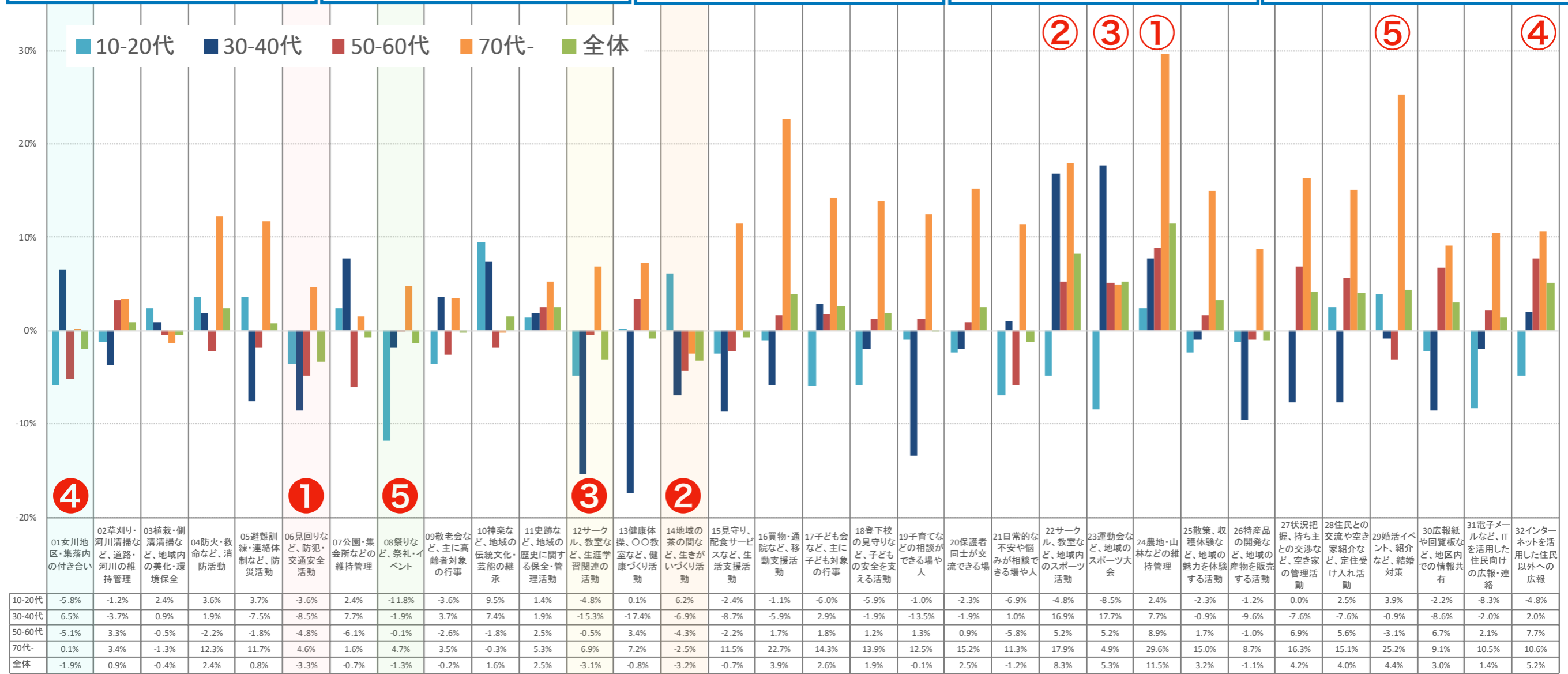
重要度率

取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

関川村女川地区（2018）

グラフが上に延びている：満足度と重要度のギャップがない（＝現状で満足／これからはさほど重要ではない）

- ① 農地・山林などの維持管理
- ② サークル、教室など、地域内のスポーツ活動
- ③ 運動会など、地域のスポーツ大会
- ④ インターネットを活用した住民以外への広報
- ⑤ 婚活イベント、紹介など、結婚対策



グラフが下に伸びている：満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）

- ① 見回りなど、防犯・交通安全活動
- ② 地域の茶の間など、生きがいづくり活動
- ③ サークル、教室など生涯学習関連の活動
- ④ 女川地区・集落内の付き合い
- ⑤ 祭りなど、祭礼・イベント

将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ (地区全体)

将来的には、さほど重要ではないあるいは現状の取り組みで満足している項目上位5つ (地区全体)

これからはこれが重要

- ①見回りなど
防犯・交通安全活動
- ②地域の茶の間など
生きがいづくり活動
- ③サークル、教室など
生涯学習関連の活動
- ④女川地区や集落内の
付き合い
- ⑤祭りなど
祭礼・イベント

ただし世代によってかなり意向は違うので要注意

- ①**農地・山林**などの
維持管理
- ②サークル、教室など
地域内の**スポーツ活動**
- ③運動会など、
地域の**スポーツ大会**
- ④**インターネットを活用**
した住民以外への**広報**
- ⑤婚活イベント、紹介など
結婚対策

さほど重要ではない

取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

関川村女川地区（2018）

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング（上位）

	全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代-
1	06見回りなど、防犯・交通安全活動 -3.3%	08祭りなど、祭礼・イベント -11.8%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -17.4%	07公園・集会所などの維持管理 -6.1%	14地域の茶の間など、生きがいきり活動 -2.5%
2	14地域の茶の間など、生きがいきり活動 -3.2%	23運動会など、地域のスポーツ大会 -8.5%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -15.3%	21日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -5.8%	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全 -1.3%
3	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -3.1%	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -8.3%	19子育てなどの相談ができる場や人 -13.5%	01女川地区・集落内の付き合い -5.1%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承 -0.3%
4	01女川地区・集落内の付き合い -1.9%	21日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -6.9%	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -9.6%	06見回りなど、防犯・交通安全活動 -4.8%	01女川地区・集落内の付き合い 0.1%
5	08祭りなど、祭礼・イベント -1.3%	17子ども会など、主に子ども対象の行事 -6.0%	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -8.7%	14地域の茶の間など、生きがいきり活動 -4.3%	07公園・集会所などの維持管理 1.6%
6	21日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -1.2%	18登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -5.9%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -8.6%	29婚活イベント、紹介など、結婚対策 -3.1%	02草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理 3.4%
7	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -1.1%	01女川地区・集落内の付き合い -5.8%	06見回りなど、防犯・交通安全活動 -8.5%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -2.6%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 3.5%
8	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -0.8%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -4.8%	28住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -7.6%	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -2.2%	06見回りなど、防犯・交通安全活動 4.6%
9	07公園・集会所などの維持管理 -0.7%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動 -4.8%	27状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -7.6%	04防火・救命など、消防活動 -2.2%	08祭りなど、祭礼・イベント 4.7%
10	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -0.7%	32インターネットを活用した住民以外への広報 -4.8%	05避難訓練・連絡体制など、防災活動 -7.5%	05避難訓練・連絡体制など、防災活動 -1.8%	23運動会など、地域のスポーツ大会 4.9%
11	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全 -0.4%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -3.6%	14地域の茶の間など、生きがいきり活動 -6.9%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承 -1.8%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 5.3%
12	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -0.2%	06見回りなど、防犯・交通安全活動 -3.6%	16買物・通院など、移動支援活動 -5.9%	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -1.0%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 6.9%
13	19子育てなどの相談ができる場や人 -0.1%	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -2.4%	02草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理 -3.7%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -0.5%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 7.2%
14	05避難訓練・連絡体制など、防災活動 0.8%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -2.3%	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -2.0%	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全 -0.5%	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 8.7%
15	02草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理 0.9%	20保護者同士が交流できる場 -2.3%	18登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -1.9%	08祭りなど、祭礼・イベント -0.1%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 9.1%
16	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 1.4%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -2.2%	20保護者同士が交流できる場 -1.9%	20保護者同士が交流できる場 0.9%	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 10.5%

年代によって大きく傾向が異なっている！

取り組みの満足度と重要度の評価 (年代別)

関川村女川地区 (2018)

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング (下位)

17	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承	1.6%	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動	-1.2%	08祭りなど、祭礼・イベント	-1.9%	18登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動	1.2%	32インターネットを活用した住民以外への広報	10.6%
18	18登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動	1.9%	02草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理	-1.2%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動	-0.9%	19子育てなどの相談ができる場や人	1.3%	21日常的な不安や悩みが相談できる場や人	11.3%
19	04防火・救命など、消防活動	2.4%	16買物・通院など、移動支援活動	-1.1%	29婚活イベント、紹介など、結婚対策	-0.9%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動	1.7%	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動	11.5%
20	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動	2.5%	19子育てなどの相談ができる場や人	-1.0%	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全	0.9%	16買物・通院など、移動支援活動	1.7%	05避難訓練・連絡体制など、防災活動	11.7%
21	20保護者同士が交流できる場	2.5%	27状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	0.0%	21日常的な不安や悩みが相談できる場や人	1.0%	17子ども会など、主に子ども対象の行事	1.8%	04防火・救命など、消防活動	12.3%
22	17子ども会など、主に子ども対象の行事	2.6%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動	0.1%	04防火・救命など、消防活動	1.9%	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡	2.1%	19子育てなどの相談ができる場や人	12.5%
23	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有	3.0%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動	1.4%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動	1.9%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動	2.5%	18登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動	13.9%
24	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動	3.2%	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全	2.4%	32インターネットを活用した住民以外への広報	2.0%	02草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理	3.3%	17子ども会など、主に子ども対象の行事	14.3%
25	16買物・通院など、移動支援活動	3.9%	07公園・集会所などの維持管理	2.4%	17子ども会など、主に子ども対象の行事	2.9%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動	3.4%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動	15.0%
26	28住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	4.0%	24農地・山林などの維持管理	2.4%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事	3.7%	23運動会など、地域のスポーツ大会	5.2%	28住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	15.1%
27	27状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	4.2%	28住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	2.5%	01女川地区・集落内の付き合い	6.5%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動	5.2%	20保護者同士が交流できる場	15.2%
28	29婚活イベント、紹介など、結婚対策	4.4%	04防火・救命など、消防活動	3.6%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承	7.4%	28住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	5.6%	27状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	16.3%
29	32インターネットを活用した住民以外への広報	5.2%	05避難訓練・連絡体制など、防災活動	3.7%	24農地・山林などの維持管理	7.7%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有	6.7%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動	17.9%
30	23運動会など、地域のスポーツ大会	5.3%	29婚活イベント、紹介など、結婚対策	3.9%	07公園・集会所などの維持管理	7.7%	27状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	6.9%	16買物・通院など、移動支援活動	22.7%
31	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動	8.3%	14地域の茶の間など、生きがいきり活動	6.2%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動	16.9%	32インターネットを活用した住民以外への広報	7.7%	29婚活イベント、紹介など、結婚対策	25.2%
32	24農地・山林などの維持管理	11.5%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承	9.5%	23運動会など、地域のスポーツ大会	17.7%	24農地・山林などの維持管理	8.9%	24農地・山林などの維持管理	29.6%

アンケート結果から見えるポイント①

関川村女川地区（2018）

☑ **農業従事者の79.3%が60代以上。**

将来的な農地の維持管理は大丈夫か？

☑ **80代になると車を運転する人の割合が減少。**

- 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。

☑ **中堅層は「健康増進」「生活支援」「子育て」が、今後は重要という認識。**

- 特に30～40代はこの必要性を強く感じている。
- 大半が車の運転ができるため、「今は困っていない」状況。ただし、車の運転ができなくなると、日々の暮らしに困る人が急増することは確実。

将来的な人口構成を勘案すると、福祉分野への取り組みが必要という認識を若年層は抱いている。

☑ **全体の半数以上がインターネットを利用**

- 50代以下は約7割（40代以下は9割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。
- 中堅層以下は、地区の情報発信・広報のインターネット活用を求める傾向が強い。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

☑必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではないではない。

- 全体的に「関心はあるが参加していない」の割合が高い。
- 「関心あり＋不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した60代以下の7割以上がこれを理由にあげている。
- 「関心なし＋付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。
- 現状は40～60代と30代男性70代男性が頑張っているので地域活動が回っている状態。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

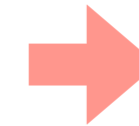
☑20～50代で土曜日が毎週休日なのは約3割、日曜日が毎週休日なのは約5割。平日が休み、不定休が、2～3割という状況。

- この世代は、必ずしも土日が休日ではない。

この世代の参加を求めらるのであれば、開催日設定の配慮が必要。

☑近所づきあいについては、半数が「悩みなし」。しかし、30~40代は「忙しすぎる」という割合が全体平均よりも高い。

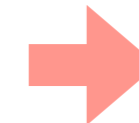
- 30~40代は会議出席・役員経験は地区平均と同じ割合。
- 60代に比べ、30~40代の人数は半分以下（30代は約1/3）である。



人は減っているのに、役割・仕事は変わっていないければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていくのに、このままの状況で大丈夫か？

☑役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと思っている。

- 30~60代の男性は「必要」と考えている割合が地区平均以上。
- 30~60代は、6割以上が会議出席経験がある。



声を反映させる場・機会の充足・工夫が必要。

会議のあり方・進め方を見直す必要性あり?!

☑地域全体の4割以上が、移住・定住者の受け入れが必要と考えている。

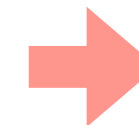
- 50代以下の男性は「積極的に受け入れるべき」という傾向が強い反面、60代女性・70代は「必要ない」という割合が高め。



次の世代は積極的な定住受け入れを求めている！

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では約4割が「わからない」と回答。

- 全体的に男性は推進派、女性は消極派という傾向。
- 特に女性は、中堅から高齢世代が積極的ではない。



交流事業を行う場合は、機運醸成が必要。

☑地域全体では半数以上が「住み続けたい」と思っているが、40代以下はその割合が地域平均よりも低く、特に若年層はかなり低い。

- 中でも、10代は半数以上が「わからない」、20代は2割以上が「思わない」と回答。



親世代が「住み続けてほしい」と思っていないことが、子ども世代に影響を与えている可能性あり。

☑地域全体では、「住み続けてほしい」という回答は4割。ただし、子育て中の親世代は、「住み続けてほしいとは思わない」の割合が高い！

- 40代・50代女性は「思わない」と回答した割合が高い。(30代はほぼ半々)
- 20代以下は「思わない」の割合がかなり高い。



このままでは、人口流出に歯止めが掛からない可能性大。

☑ 2/3以上が「地域に愛着がある」と回答している。若年層も半分以上が「愛着あり」と回答している。

- 全体的に地域への愛着度は高い。
- 誇りに思う地域資源については、30~40代で「暮らす人々」「助け合いなどの社会関係」を挙げる割合が地区平均よりも低い。

☑ 暮らしの中の困りごとトップ4は、

- ① 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
- ② コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便
- ③ 農地や山林の維持管理
- ④ 健康面への不安

☑ 今後、重点的に取り組むべきテーマは、世代によってかなり大きなバラツキがある。

- 中堅層以下と高齢者層では、著しく意見が異なっている。
- 困りごととしては上位に来ているものの、今後のことを考えた時に重要ではないという、意見のねじれが散見される。

定住意向が低いのは生活環境などに不安を抱いている現れ?!

次世代が将来への希望を見いだせる地域づくりが不可避。

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

世代間の意見のギャップが著しく、将来を見据えた取り組みを考える際は、丁寧な対話が不可欠!